

【ソフトウェア使用許諾書】

下記の条項は株式会社アーク情報システム（以下「ARK」といいます）が、「HD 革命 /WinProtector Ver.6」（コンピューター・ソフトウェア、マニュアル、その他関連資料を含み、以下「本ソフトウェア」といいます）に適用いたします。

本契約は、個人または法人を問わずパッケージ版に適用され、ライセンス版のように別途使用許諾書が存在するものはそちらを優先するものとします。

1. 使用許諾

- ①お客様は本ソフトウェアを、1台のコンピューターに限り使用できます。ただし、本ソフトウェアを試用版の状態で使用する場合に限り、複数台のコンピューターにインストールして使用することができます。
- ②お客様は本ソフトウェアのバックアップを目的に、ただ一つの複製を作成することができます（バンドル版は除きます）。
- ③お客様が本契約にご同意いただけない場合、本ソフトウェアに関するサービス（主にサポートサービスとなりますがこれに限りません）の提供を受けられない場合があります。
- ④お客様が本契約のいずれかの条項に違反した場合、ARKは本契約を一方的に終了させていただくことがあります。

2. 使用許諾期間

- ①本契約は、お客様が本契約の内容に同意して本ソフトウェアの使用を開始したときより発効し、お客様が本ソフトウェアの使用を止められるまでを有効とします。ただし、試用版の状態で使用する場合は、本ソフトウェアの試用期間を超えて使用することはできません。また、同一のコンピューターで2回以上使用することはできないものとします。

3. 保証および責任の内容

- ①CDおよびマニュアルに物理的な欠陥がある場合は、購入後90日以内は無償で交換いたします（バンドル版は除きます）。ただし、お客様は本ソフトウェアの購入日を証明できる写しを添付しなければなりません。それ以外の場合は実費をご負担いただきます。
- ②サポートサービスは、ユーザー登録を行ったお客様に対してARKの規定に沿って電話、メール、FAXで行います。試用版の状態で使用する場合、本ソフトウェアの技術的なサポートサービス（プログラムの更新情報の通知、アップデータの提供などを含む）は行いません。また、本ソフトウェアやサポートサービスがお客様の目的に適合することを保証するものではありません。
- ③ARKは、ユーザー登録がなされない場合や、登録変更の届け出がなされない場合、またはその内容に不備がある場合において、ARKからお客様へ連絡の不達において生じる不利益および損害については、一切の責任を負うものではありません。
- ④ARKは、サポートサービス期間が終了した製品に関しては、サポートサービスを提供する義務を負わないものとします。なお、本製品のサポートサービス期間の終了に関しては、Webページにてご案内をいたします。
- ⑤本ソフトウェアに関する情報やサポートサービスの内容に関しては、メールやWebページなどインターネットを利用して提供されるものがあります。インターネット接続環境をお持ちでないお客様においては、一部ご利用いただけないサポートサービスがあります。
- ⑥ARK（バンドル版においては本ソフトウェアの提供先も含まれます）は、いかなる場合にもお客様が本ソフトウェアを使用した結果に関して一切の責任を負うものではありません。
- ⑦本契約のもとで、本ソフトウェアの品質および性能に関して発生する問題は、お客様の費用負担をもって処理するものとします。
- ⑧本契約のもとで、ARKがお客様に負担する責任の総額は、本ソフトウェアの購入金額を超えないものとします。
- ⑨お客様にご登録いただいた個人情報は、ARKの情報セキュリティ方針に従い適切な保護を行います。
- ⑩ARKは、本ソフトウェアの仕様およびサポートサービスの内容を予告なしに変更することがあります。
- ⑪本ソフトウェアのサービス（主にサポートサービスとなりますがこれに限りません）は日本国内に限定されるものとします。また、日本語で対応することとします。

4. 禁止事項

- ①本ソフトウェアを逆コンパイルまたは逆アセンブル、またはその他の方法でソースコードを解析すること。
- ②本ソフトウェアを譲渡、転貸、再販売、輸出すること。
- ③ARKへの文書による事前の承諾なしに、本ソフトウェアの二次著作物を創作、譲渡、販売、転貸すること。
- ④ARKへの事前の承諾なしに、本ソフトウェアを引用し書籍を刊行すること。
- ⑤ネットワークにおいて、本ソフトウェアを私的使用を超える範囲で利用すること。

5. その他

- ①お客様およびARKは、本契約に関連して発生した紛争については、東京地方裁判所を第一審の管轄裁判所とするものとします。

著作権

- ・HD 革命 /WinProtector の著作権は株式会社アーク情報システムが有しています。
- ・HD 革命は株式会社アーク情報システムの登録商標です。
- ・WinProtector は株式会社アーク情報システムの登録商標です。

目 次

第1章 HD 革命 /WinProtector の使用開始にあたって	・ ご利用いただけるシステム環境（システム要件）1-2 ・ HD 革命 /WinProtector のインストール1-3 ・ HD 革命 /WinProtector 使用時の注意事項・制限事項1-4 ・ データトランスファー使用時の注意事項・制限事項1-8
第2章 HD 革命 /WinProtector を使用する	・ HD 革命 /WinProtector の基本機能2-2 ・ ドライブの保護2-3 ・ ドライブの保護の解除2-4 ・ モニターウィンドウと一時ファイル容量2-5 ・ 解除セクターと終了ダイアログ2-6 ・ オプションの設定2-7 保護するドライブの設定2-7 一時ファイルの保存先2-8 一時ファイル（ハードディスク）2-9 一時ファイル（メモリー）2-10 除外する項目の設定2-11 アップデート連携2-13 リミット時の設定2-15 ウィンドウの設定2-16 その他の設定2-17 ユーザー設定2-19 更新の確認2-21 コラム：Windows Update 実行時の動作について2-22 コラム：アンチウィルスソフトウェアの更新動作について2-23 コラム：アップデート連携について2-24
第3章 便利ツール	・ ComfortDisk3-2 ・ データトランスファー3-3 ・ ドライブ情報の取得3-7 ・ コンピューター情報の取得3-8 ・ ネットワークマネージャー3-10 ・ コラム：アップデート連携時の画面表示3-11

第4章	・「詳細設定」のインポート・エクスポート	4-2
管理者向け機能	・サイレントインストール	4-4
	・Windows Update アップデート連携用の設定	4-6
	・WinProtector アップデート用設定	4-8
	・除外する項目（保護の対象としない項目）を登録	4-10
	・ネットワークマネージャーのコマンドライン操作	4-13
付録	・ユーザーサポートのご利用にあたって	付録-2
	・ユーザーサポート申込書	付録-3

第 1 章

HD 革命 /WinProtector の 使用開始にあたって

ここでは、HD 革命 /WinProtector Ver.6 をお使いいただける動作環境、インストール方法、注意事項や制限事項などについて説明しています。

ご利用いただけるシステム環境（システム要件）

HD 革命 /WinProtector Ver.6（以下「HD 革命 /WinProtector」）をご利用いただくためには、次のコンピューターハードウェアおよびオペレーティングシステムが必要です。

コンピューターシステム環境

オペレーティングシステム (いずれも日本語版)	Windows 10 32bit/64bit 版 Windows 8.1 32bit/64bit 版 Windows 8 32bit/64bit 版 Windows 7 32bit/64bit 版 (SP1 以降) ※Windows RT/RT 8.1 には対応していません。 ※ アドミニストレーター権限（管理者権限）が必要です。
コンピューター	上記のオペレーティングシステムが稼働するコンピューター（PC/AT 互換機のみ） ※Macintosh（Mac）には対応していません。
メモリー	Windows 10/8.1/8/7 64bit 版：2GB 以上 Windows 10/8.1/8/7 32bit 版：1GB 以上 ※メモリー上に「一時ファイル」を設定する場合、保護を行うためのメモリーとは別に、インデックス用としてドライブサイズに対して約 1,000 分の 1 のメモリー容量が必要です。
CD/DVD ドライブ	CD-ROM が読み込めるドライブ
ハードディスク SSD	50MB の空き容量（本製品のインストール用として）
対応ファイルシステム	FAT32、NTFS（FAT16、exFAT には対応していません） ※ ダイナミックディスクの環境では使用できません。 ※ 仮想ディスク（VHD）をマウントしたドライブには対応していません。
その他	インターネット接続環境 ※ アップデータのダウンロードなどで必要となります。

- ※HD 革命 /WinProtector は、Symantec 社の「Norton GoBack」（「System Works」に含まれる「Norton GoBack」を含む）と共存できません。
- ※32bit の OS において、OS 管理外のメモリーを使用するには、Intel955 以降のチップセット、または AMD Opteron/Athlon 64/Phenom など 8GB 以上のメモリーを利用できる CPU を搭載している必要があります。
- ※コンピューターによっては OS 管理外のメモリーを使用するに当たり、BIOS の設定（メモリーマップ機能）を有効にする必要があります。BIOS によってはこの設定がない場合がありますので、コンピューター付属のマニュアル等でご確認ください。
- ※他の OS 管理外のメモリーを使用しているソフトウェアと同時に、OS 管理外のメモリーを使用することはできません。
- ※お使いの環境によっては、HD 革命 /WinProtector を使用している間は、Windows の休止状態 / サスペンド、スタンバイ / スリープなどの省電力機能が正しく動作しない場合があります。また、OS 管理外のメモリーを使用する場合は、省電力機能は使用できません。

HD 革命 /WinProtector Ver.6 の製品エディション

HD 革命 /WinProtector Ver.6 の製品エディションには、個人ユーザー向けの「Standard」、サーバー・クライアント環境で使用する法人向けの「with Network Controller」があります。そのほかに、「Simple Edition」が存在します。

- ・**Standard**：Windows の保護を行うための基本ソフトウェア「HD 革命 /WinProtector」が搭載されているエディションとなります。
- ・**Simple Edition**：「HD 革命 /WinProtector」において、コンピューターを ROM 化するために必要な機能のみ搭載したエディションとなります。
- ・**with Network Controller**：「HD 革命 /WinProtector」において、コンピューターを ROM 化するために必要な機能のみ搭載したエディションとなります。

HD 革命 /WinProtector のインストール

旧バージョンの HD 革命 /WinProtector、または SSD 革命 /SpeedAdvance をインストールされている場合は、アンインストールしてからインストールを始めてください。

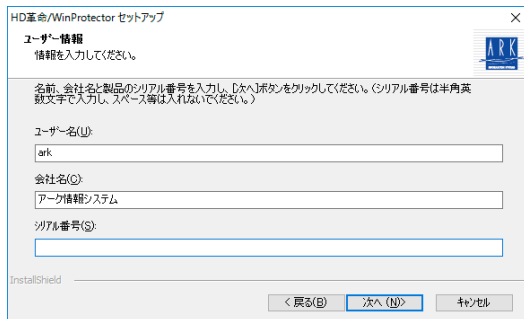
1 インストール開始

「インストール開始」をクリックします。



2 シリアル番号の入力

シリアル番号を入力します。



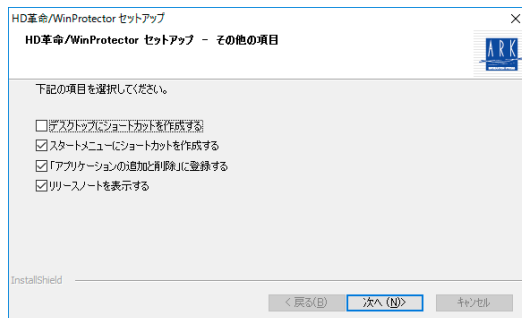
- シリアル番号は、半角英字の太文字と半角数字で入力してください。ハイフン（-）も必要です。
- (例) ABCD -E12-FGH345JK67
- 受け付けられないときは、全角文字や小文字になっていないかどうかを確認してください。

3 項目の選択

インストールに関する設定を行います。「デスクトップにショートカットを作成する」を選択すると、インストール後、デスクトップに「Ark ランチャー」のアイコンが作成されます。

デスクトップショートカットの作成は、初期設定でオフとなっていますので、必要に応じてチェックを入れてください。

リリースノートには補足事項が記載されていますので初回インストール時にお読みください。



4 再起動

インストール後はコンピューターを再起動します。アンインストールは、Windows の「コントロール パネル」を開き、「プログラムのアンインストール」から行ってください。

ARK ランチャーについて

Ark ランチャーは、HD 革命 /WinProtector のメイン画面の起動や、各種ツールを起動することができます。Ark ランチャーは [C:\Program Files\Common Files\ARK Information Systems Share] にインストールされます。



HD 革命 /WinProtector 使用時の注意事項・制限事項

安全にご利用いただくために

- ・お使いの環境やインストールされているソフトウェアによっては、正常に動作しないことがあります。このような場合は、常駐ソフトウェアの停止や周辺機器の取り外しを行うことで、動作するようになることがあります。
- ・Symantec 社の「Norton GoBack」(「SystemWorks」に含まれる「Norton GoBack」も含む) がインストールされている環境には、HD 革命 /WinProtector をインストールしないでください。HD 革命 /WinProtector をインストールする前に「Norton GoBack」をアンインストールしてください。

ハードディスク、ファイルシステムなどに関連して

●ファイルシステムについて

対応ファイルシステムは NTFS と FAT32 です。ただし、仮想ディスク (VHD) をマウントしたドライブには対応していません。

●ダイナミックディスクについて

ダイナミックディスクの環境で保護を行うことはできません。

●ディスクデフラグについて

HD 革命 /WinProtector によってドライブの保護を行っている間は、「ディスク デフラグ」またはそれと同様の機能をもつディスク最適化ソフトウェアによる最適化は行わないでください。

●ハードディスクの断片化について

ドライブの断片化が激しいときは、保護を行うことができません。このようなときは、あらかじめ「ディスク デフラグ」などによって断片化を解消してください。

●OS の起動に関わるファイルが、保護されているドライブ以外にある場合の注意事項

マルチブートなどの環境で、OS の起動に関わるフ

ァイルが、保護されているドライブ以外にある場合は、そのファイルは保護されていないためにファイルの破損・変更があると OS の起動ができなくなります。

●保護中のドライブ操作について

HD 革命 /WinProtector でシステムを保護している間は、「ディスクの管理」や「HD 革命 /Partition EX」、そのほかのツールでドライブの作成や削除などの操作を行わないでください。

●Windows 10/8.1/8 の「記憶域」機能で作成したディスクについて

Windows 10/8.1/8 の「記憶域」で作成したディスクに対して保護を行うことは動作保証外となります。

●暗号化ソフトウェアとの併用について

HD 革命 /WinProtector は、BitLocker 暗号化機能に対応していますが、BitLocker 以外の暗号化ソフトウェアには対応していません。「設定ファイルが読み込めませんでした。」とメッセージが表示される場合は、BitLocker 以外の暗号化ソフトウェアによる暗号化が行われている可能性がありますので、暗号化を解除してから保護を開始してください。

BitLocker により暗号化されたディスクに対して保護を行う場合、「除外する項目の設定」タブ (2-11 ページ) で除外する項目名を選択することはできません。また、「リアルモードから保護を開始する」、「シャットダウン／再起動時に一時ファイルの内容を継続する」(共に 2-17 ページ) のオプションは使用できません。

システムの操作に関連して

●保護中の省電力機能について

お使いの環境によっては、HD 革命 /WinProtector でシステムを保護している間は、Windows の休止状態／サスペンド、スタンバイ／スリープが正しく動作しない場合があります。また、OS 管理外のメモリー

を使用する場合は、省電力機能は使用できません。

●保護中にコンピューターをリセットした場合の動作について

ドライブを保護中にコンピューターをリセットした場合や、一時ファイルが限界値に達して再起動した場合、保護中に変更されたデータは破棄されてしまいます。重要なデータは定期的にバックアップを行うか、別のドライブやメディアに保存してください。

また、「OS 起動時から保護を開始する」にチェックを入れていないときは保護が解除された状態で Windows が再起動します。保護された状態で Windows を再起動したいときは「OS 起動時から保護を開始する」にチェックを入れてください（OS の起動時／終了時の設定は 2-17 ページ参照）。

●「一時ファイル」と「インデックス」

HD 革命 /WinProtector は、ドライブへの書き込みを保存するための「一時ファイル」をメモリーにも作成できます。また、それとは別に、どのセクターが使用されたかを記録するための「インデックス」も同様にメモリー上にも作成できます。「インデックス」は、ドライブのサイズに応じて必要なサイズが異なり、ドライブサイズに対して約 1,000 分の 1 のメモリー容量が必要です。

そのため、メモリーを使用する設定にして保護を行うには、「一時ファイル」＋「インデックス」のメモリー容量が必要となります。ドライブのサイズが大きくなるほど、「インデックス」の作成に必要なメモリーも大きくなるため、メモリーサイズとドライブのサイズによっては保護を行うことができません。

「メモリーが足りません」と表示される場合は、ドライブのサイズを小さくするか、ハードディスクに設定するようにしてください。

●OS 管理外メモリーについて

32 ビット版の Windows では、OS の制限により 3GB（値は環境により前後します）のメモリーしか認識できません。3GB 以上のメモリーは OS 管理外のメモリーとなります。HD 革命 /WinProtector では、この OS 管理外メモリーも使用することができますが、以下の注意事項があります。

- ・OS 管理外のメモリーを使用するには、Intel955 以降のチップセット、または AMD Opteron/Athlon 64/Phenom など 8GB 以上のメモリーを利用できる CPU を搭載している必要があります。
- ・コンピューターによっては OS 管理外のメモリーを使用するに当たり、BIOS の設定（メモリーリマップ機能）を有効にする必要があります。BIOS によってはこの設定がない場合がありますので、マニュアル等で確認ください。
- ・他の OS 管理外のメモリーを使用しているソフトウェア（Memory 革命 /RAM Drive など）と同時に、OS 管理外のメモリーを使用することはできません。
- ・OS 管理外のメモリーを使用する場合は、休止状態 / スuspendなどの省電力機能は使用できません。

●Windows 起動時のメモリー不足について

Windows の起動時に保護を開始する設定にし、かつ保護中の変更内容をドライブに適用する場合、変更した内容（アプリケーションのインストールやアップデートなど）の影響で Windows が必要とするメモリー容量が増えると、Windows がメモリー不足となり動作できなくなります。このとき、解除セクターを表示しないようにしていると、Windows 起動時に保護を解除できないため、Windows が起動できなくなる可能性があります。

変更をシステムに適用する設定にしている場合は、設定する一時ファイルのサイズには余裕を持たせ、「その他の設定」（2-17 ページ）で「解除セクターを表示する」のチェックをはずさないようにしてください。

チェックディスクの操作について

HD 革命 /WinProtector で「OS 起動時から保護を開始する」または「リアルモードから保護を開始する」のオプションが選択されている場合、Windows 起動時にチェックディスクが行われるとチェックディスクによる再起動が繰り返えされ、Windows の起動に支障が出ることがあります。これは、HD 革命 /WinProtector がドライブを保護しているため、チェックディスクが終了したことを示すフラグが破棄されてしまうことによります。チェックディスクが頻繁に発生するような環境で使用

する場合は、チェックディスクをオフにして使用してください。設定の変更は「ComfortDisk」(3-2 ページ) より行うことができます。

「現在の状態をシステムに適用後、保護を継続する」オプションを使用する場合の注意事項

●オプションを使用するための条件

2-8 ページの「一時ファイルの保存先」タブで、「一時ファイルの場所」に「メモリー」を選択し、かつ「保護するドライブの設定」タブで、保護するドライブが1つだけ選択されている場合のみ、このオプションを使用することができます。

●再起動時の注意

他のアプリケーションから直接 Windows のシャットダウン／再起動が行われると、「終了ダイアログ」は表示されません。このオプションを選択している場合、変更が適用されずにシャットダウン／再起動が行われるため、書き込まれたタイミングによっては、内容に不整合が起こり OS やアプリケーションの動作に支障が出る場合があります。このオプションを選択している場合は、他のアプリケーションでシャットダウン／再起動を行わず、Windows によるシャットダウン／再起動を行ってください。

「保護ドライブへの全ての書き込みを一時ファイルへ書き込む」オプションを使用する場合の注意事項

HD 革命 /WinProtector では、ドライブの保護中に使用領域（保護を開始した時点でファイル・フォルダーが存在する領域）の変更が行われると、その変更は「一時ファイル」に書き込まれます。新規に作成するファイル・フォルダーは、そのままドライブの「空き領域」に書き込み、どの領域が使用されているかの情報のみ「一時ファイル」に書き込まれるようになっています。

「その他の設定」タブ (2-17 ページ) で「保護ドライブへの全ての書き込みを一時ファイルへ書き込む」オプションを選択すると、この「空き領域」への書き込みもすべて「一時ファイル」に書き込まれ

ることになりますのでセキュリティは向上しますが、「一時ファイル」の使用量がオプションを使用しない場合と比べて大きくなります。

「リアルモードから保護を開始する」オプションを使用する場合の注意事項

システムドライブが GPT ディスク環境では、「詳細設定」の「その他の設定」において「リアルモードから保護を開始する」オプションは選択できません。また、Intel 6 シリーズ以降のチップセット (Z68、Z77、Z87 など) を搭載したコンピュータで、RAID 機能 (Intel Smart Response Technology) が有効の場合は、「リアルモードから保護を開始する」オプションを選択しても、メモリ不足により保護を開始することができません。「OS 起動時から保護を開始する」設定であれば、前述の環境においても起動時からの保護を行うことは可能です。

なお、「リアルモードから保護を開始する」オプションが使用できない場合、この機能と連動している「シャットダウン／再起動時に一時ファイルの内容を継続する」オプションで継続保護を行うことができません。

SSD (Solid State Drive) を保護する場合の注意事項

Windows 7 以降の OS には、SSD の最適化を行う Trim 機能がありますが、この機能が有効の環境でドライブの保護を行うと、保護が正常に行われなかったことがあります。SSD 上のドライブを保護する場合は、Trim 機能をオフにご利用ください。Trim 機能は、「ComfortDisk」(3-2 ページ) で設定を変更することができます。

除外フォルダー設定時の注意事項

除外フォルダーを設定する場合、「保護ドライブへの全ての書き込みを一時ファイルに書き込む」のオプションがオンになります。

そのため、除外フォルダーであってもデータを保

存すると保護ドライブへの書き込みが行われたことになり、その分一時ファイルの使用容量が増加します。

「アップデート連携」で WSUS サーバーを使用する場合の注意事項

「アップデート連携」タブで、「Windows Update の更新処理を行う」オプションを設定し、詳細画面 (2-14 ページ) で WSUS サーバーの設定を行うと、Windows のグループポリシーにおける WSUS サーバーの設定が変更されます。

そのため、HD 革命 /WinProtector を介さない Windows Update を行う場合も、設定した WSUS サーバーに接続しにいくようになります。また、WSUS サーバーの設定をしたまま HD 革命 /WinProtector をアンインストールしてもグループポリシーの WSUS サーバーの設定は残ったままとなります。

「アップデート連携」でプロキシサーバーを使用する場合の注意事項

「アップデート連携」タブで、「Windows Update の更新処理を行う」オプションを設定し、詳細画面 (2-14 ページ) でプロキシサーバーの設定を行う場合、Windows 10 の環境では認証つきプロキシは指定できません。

ネットワークマネージャー使用時の注意事項

- ・「HD 革命 /WinProtector」と「ネットワークマネージャー」は同時にインストールできません。
- ・「ネットワークマネージャー」機能を使用する場合は、ファイアウォールの例外処理を行っています。この例外処理は「HD 革命 /WinProtector」および「ネットワークマネージャー」のインストール時に行われます。そのため、後からセキュリティソフトウェアがインストールされた場合、例外処理が行われていないためにリモートでの保護の開始、解除ができません。「HD 革命 /WinProtector」または「ネットワークマネージャー」を一度アン

インストールし、再度インストールしてください。

革命シリーズとの共存について

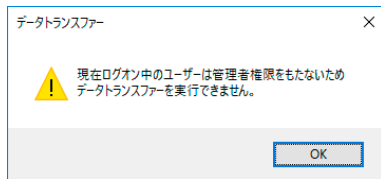
SSD 革命 /SpeedAdvance と同時使用はできません。

HD 革命 /WinProtector で保護中は、他の革命シリーズでのバックアップやコピーを行うことができません。また、すべての機能が使用できない場合があります。

データトランスファー使用時の注意事項・制限事項

データトランスファーを実行できるユーザー権限

データトランスファーでデータを移行するには管理者権限が必要です。ユーザー権限では次のメッセージが表示され、実行することはできません。



マルチユーザーのデータ移行

現在ログオンしているユーザーアカウント（「コンピューターの管理者」を含む）では、別のユーザーアカウントのデータを移行することはできません。そのため、1台のコンピューターに複数ユーザーアカウントがあり、それぞれに移行したいデータが存在する場合は、各ユーザーアカウントごとにログオンし、データ移行を行う必要があります。

データトランスファーの各画面のタイトルバーには、データ移行を行うログオンユーザー名が表示されるので確認することができます。



異なるファイルシステムへの移行

移行元ドライブのファイルシステムが移行先ドラ

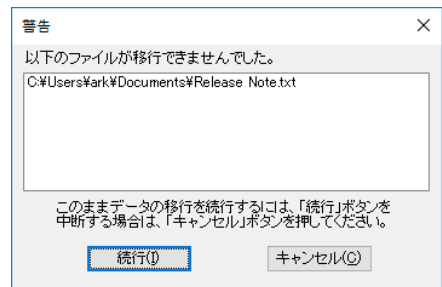
イブと異なる場合（例：移行元が NTFS で移行先が FAT32）はデータを移行できません。

スタートメニューが残る現象

データトランスファーでスタートメニューを移行した後、ドライブを保護した状態でアプリケーションプログラムをインストール後、保護解除時に変更内容をドライブに適用しないで再起動を行うと、インストールしたアプリケーションによって新しく作成されたスタートメニューだけが残ってしまうことがあります。保護解除時に変更内容をシステムに適用するか、再起動をする前にアンインストールを行ってください。

ファイルを使用中のときの移行

データトランスファーでは、ファイルを使用中のときはそのファイルを移行することができません。移行できないときは次の画面が開きます。



特に、Windows の自動更新ウィザードが常駐していると移行できないファイルがあります。「続行」をクリックして、ほかの移行可能なファイルを移行してください。

ファイル名、フォルダー名

ファイル名やフォルダー名に英語以外の外国語の文字や外字エディタにより作成した文字が含まれている場合、そのファイル、フォルダーはデータトラン

スファアでは移行できないことがあります。

アプリケーション設定の移行

データトランスファーで移行できるアプリケーションプログラムの設定ファイルなどは、次のフォルダーの下に保存されているものに限られます。

- ・ Windows 7 以降の OS の場合 (システムドライブが C: のとき)

C:\¥users¥ (ユーザー名) ¥AppData¥Roaming

このフォルダー以外のフォルダーにデータを保存するアプリケーションプログラムのデータは移行することはできません。

ただし、アプリケーションプログラムによっては、このフォルダー以外にも独自の設定をもっているものがあります。

このようなアプリケーションプログラムでは、データを移行することができない場合や、アプリケーション側で設定を変更しないと使用できないものがあります。

データの移行先ドライブについて

データ移行先のドライブは、フォーマットや消去をしないようにしてください。また、移行先のドライブに作成されるフォルダー (* : ¥Transferred Setting (* は移行先のドライブ文字)) には移行されたデータが保存されていますので、削除しないでください。

移行時のディスクの空き容量

データトランスファーでデータを移行する場合、移行するデータサイズが移行先ドライブの空き容量より大きい場合は、データを移行することはできません。移行先ドライブの空き容量を増やすか、他のドライブを選択してください。

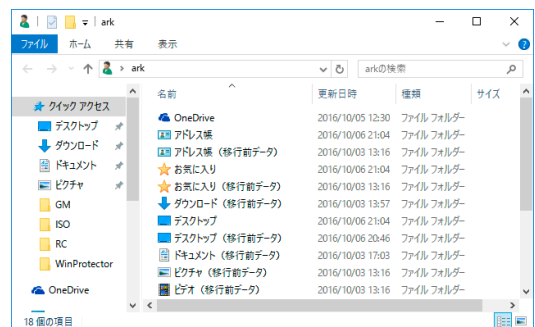
また、元のドライブに戻るときも同様に、移行するデータサイズがドライブの空き容量より大きい場合は、データを移行する (元のドライブに戻す) ことはできません。

例えば、「メールデータ」や「ドキュメント」を

移行した後に、そのデータサイズが元のドライブの空き容量より大きくなってしまうと、元のドライブに戻すことができません。

移行前のデータが残ることについて

Windows 7 以降の OS 環境でデータトランスファーによりデータを移行すると、次の画面のように移行前と移行先 (* : ¥Transferred Setting) のフォルダー名が表示されます。ここで、「(移行前データ)」と表示されているフォルダーは、データトランスファーで移行する前のフォルダーです。



保護中に「(移行前データ)」と表示されているフォルダーにデータを保存しても、保護を解除するとデータは破棄されます。

保護中は、「(移行前データ)」と表示されたフォルダーにデータを保存しないようにしてください。

保護中のドライブへのデータ移行について

データトランスファーでデータを移動するドライブが、HD 革命 / WinProtector で保護するドライブに設定されている場合、変更を適用せずに再起動 / シャットダウンを行うとデータが破棄されてしまいます。移行先のドライブと保護するドライブの設定をよく確認してからデータを移行するようにしてください。

第2章

HD 革命 /WinProtector を使用する

ここでは、HD 革命 /WinProtector Ver.6 を使用して、ドライブの保護、保護の解除、オプションの設定などを行う方法について説明しています。

HD 革命 /WinProtector の基本機能

HD 革命 /WinProtector の基本機能について説明します。

HD 革命 /WinProtector の基本機能

HD 革命 /WinProtector は、Windows 使用時にドライブへの書き込みが行われないように制限することにより、ドライブの保護を行うソフトウェアです。

通常ならドライブへ書き込まれるデータは、別ドライブやコンピュータの物理メモリー上に作成した領域（HD 革命 /WinProtector では「一時ファイル」といいます）に書き込まれます。これによりドライブが保護されます。

ドライブの保護を開始すると、ドライブへの書き込みは HD 革命 /WinProtector のドライバがそれをすべて“横取り”して一時ファイルに書き込みます。見た目には何も変化はありませんが、実際には HD 革命 /WinProtector が管理する一時ファイルとの間で書き込み、読み込みが行われているため、ドライブの内容は一切変更されません。

コンピュータを再起動することで一時ファイルに書き込まれた内容は破棄されますので、変更された設定やデータなどを簡単に元の状態に戻すことができます。一時ファイルをすべてメモリーに割り当

てれば、書き込まれたデータは完全に消去されますので、よりセキュアな環境を構築できます。

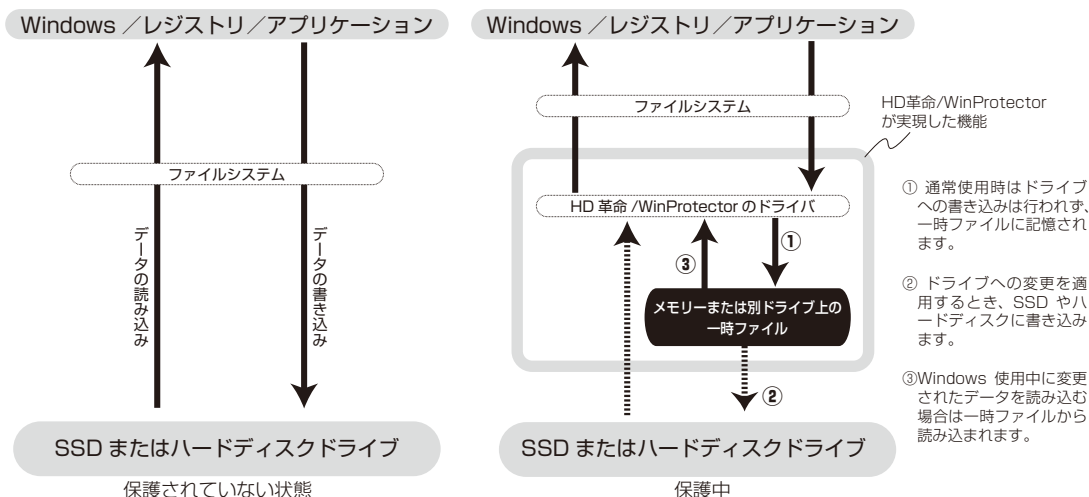
なお、一時ファイルに書き込まれた内容は、オプション設定で変更を実際のドライブに適用する（反映する）こともできますので、利用環境や用途に応じて使い分けることができます。

保護中の動作

下の図は、HD 革命 /WinProtector による保護中の動作を表したものです。

保護中は、Windows やアプリケーションから SSD、ハードディスクへの書き込みが行われても、HD 革命 /WinProtector がフィルターの役目を果たし、書き込みを制限します。このときにデータを書き込む場所が一時ファイルとなります。

元から SSD またはハードディスク上にあるデータはそのまま読み込まれますが、変更されたデータは一時ファイルから読み込まれることとなります。一時ファイルの設定する場所はメモリーとハードディスクが選択でき、その両方を使用することもできます。



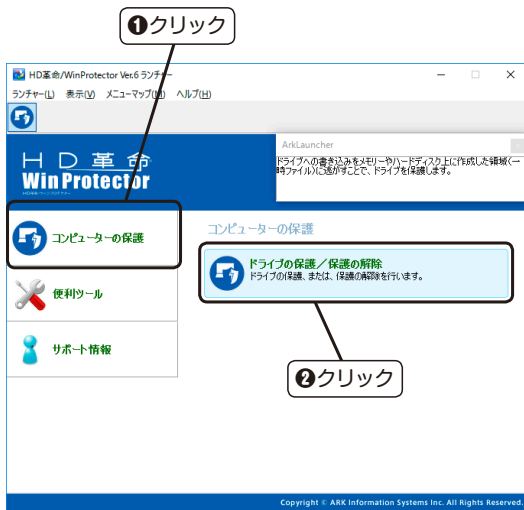
HD 革命 /WinProtector による保護の動作図

ドライブの保護

ドライブの保護を行う手順を説明します。

1 「ドライブの保護／保護の解除」を選択

Ark ランチャーで「コンピューターの保護」→「ドライブの保護／保護の解除」を選択します。



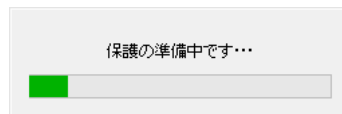
2 「開始」を選択

「開始」をクリックします。



3 保護の準備

保護を開始する前に準備中のメッセージが表示されます。環境によっては開始までに時間がかかります。



4 ドライブの保護

保護中は、メインウィンドウの状態で「保護されています。」と表示されます。

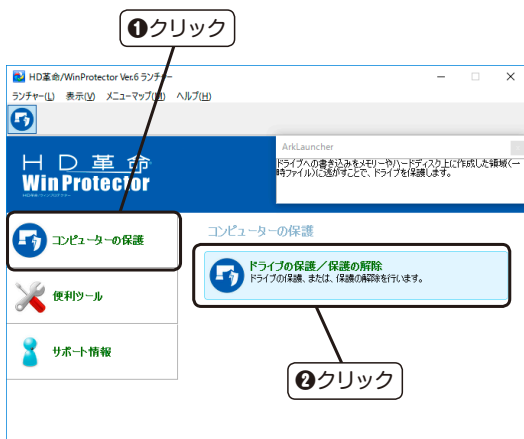


ドライブの保護の解除

ドライブの保護を解除する手順を説明します。

1 「ドライブの保護／保護の解除」を選択

Ark ランチャーで「コンピューターの保護」→「ドライブの保護／保護の解除」を選択します。



2 「解除」を選択

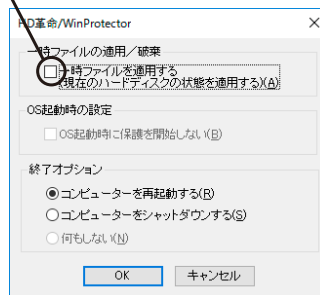
「解除」をクリックします。



3 終了ダイアログで設定

終了ダイアログ（詳細は 2-6 ページ）で、保護中にドライブに書き込まれた内容を適用するかどうか、また、その後の動作を選択します。

変更内容を適用する場合はチェックを入れます。適用する場合、解除処理に時間がかかることがありますが、処理中はコンピューターの電源を切ることや、リセットを行うことはしないでください。

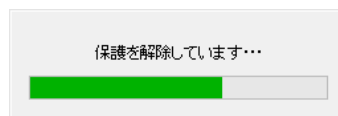


Point

終了ダイアログは、保護中に Windows のシャットダウン・再起動を行う場合にも表示されます。「詳細設定」オプションで表示しないようにすることもできます。

4 保護の解除

保護を解除中は次のメッセージが表示されます。環境によっては解除までに時間がかかります。



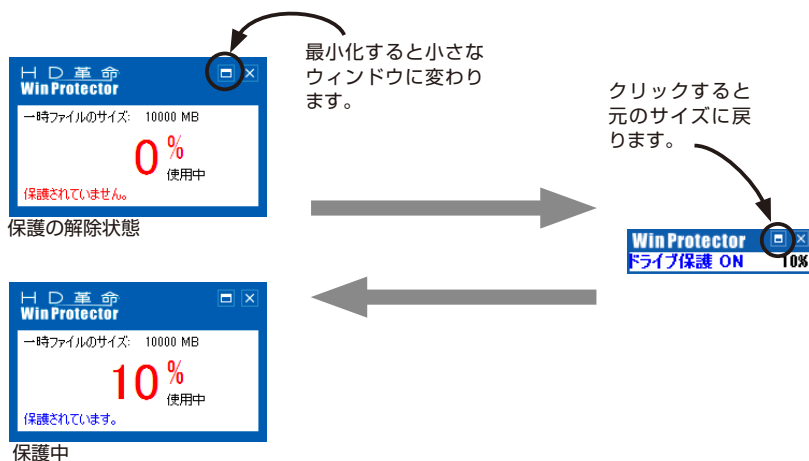
保護が解除されると、メインウィンドウの状態では「保護されていません。」と表示されます。



モニターウィンドウと一時ファイル容量

HD 革命 /WinProtector が起動するとモニターウィンドウが表示され（「ウィンドウの設定」（2-16 ページ）で非表示に設定することも可能）ます。

モニターウィンドウには、保護中かどうかと、保護中のときは一時ファイルの全体容量と使用済み容量（%）が表示されます。



HD 革命 /WinProtector による保護状態にて Windows を使用し続けると、一時ファイルの使用済み容量（%）が増加します。

一時ファイルの使用済み容量が規定値に達すると、コンピューターはシャットダウン／再起動します（「リミット時の動作」設定は 2-15 ページ参照）。

一時ファイルの使用済み容量が 100% になると、強制的にコンピューターが再起動します。

Point

一時ファイルの使用済み容量の増加について

一時ファイルの使用済み容量は、ドライブに書き込みが行われることで増加します。そのため、システムユーティリティやアンチウイルスソフトなどによりドライブに定期的な書き込みが行われると、一時ファイルの使用容量は通常の場合よりも早く増加することになります。また、Windows の復元ポイントの自動作成や、自動更新による書き込みでも一時ファイルの使用量は増加します。停止させても問題がないソフトウェアや機能を停止することで、一時ファイルの使用済み容量の増加を抑えることができます。

解除セクターと終了ダイアログ

HD 革命 /WinProtector では、Windows の起動と終了時に保護の解除・設定をするセクターとダイアログが表示されます。セクターとダイアログは「詳細設定」オプションで表示しないようにすることもできます。

解除セクター

● OS 起動時から保護を開始する場合

Windows の起動時に、保護を解除するセクターが表示されます。カウントされている間に「ESC」キーを押すと保護を解除することができます。

```
Press [ESC] key to cancel protection
Press another key to start protection ... 3
```

保護解除用のパスワードを設定している場合はパスワードの入力を求められます。ここで入力を3回間違えると入力が中止され、保護された状態で Windows が起動します。

```
Enter password, press [Enter] to confirm :
```

● 継続保護を行う（リアルモードから保護を開始する）場合

オプションの「その他の設定」で「シャットダウン／再起動時に一時ファイルの内容を継続する」を選択している場合は、OS 起動時からの保護とは異なるメッセージのセクターが表示されます。

カウントされている間に「ESC」キーを押すと本当に保護を解除するかの確認がもう一度あり、「Y」キーを押すと保護を解除することができます。

```
Press any key to start protection (Press "ESC" for cancel) 6_
```

保護解除用のパスワードを設定している場合はパスワードの入力を求められます。ここで正しいパスワードを入力しない場合は保護を解除して Windows を起動することができません。

```
Enter Password, press "Enter" to confirm : _
Press "ESC" to start protection.
```

※「ESC」キーを押すと保護を解除せずに Windows が起動します。

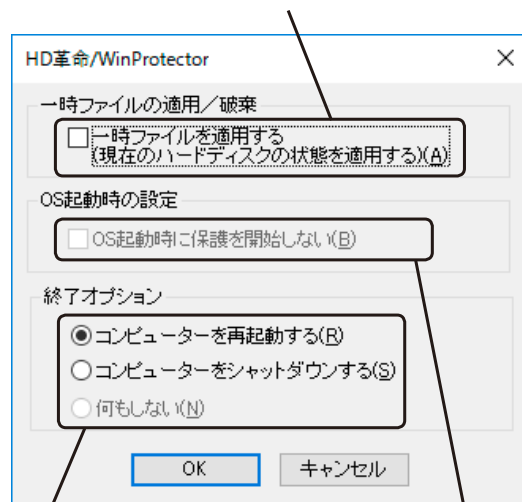
Point

オプションの「その他の設定」で「コンピューター起動時／終了時の設定」を「リアルモードから保護を開始する」にしている場合は、こちらのメッセージが表示されます。

終了ダイアログ

「終了ダイアログ」は保護の解除時に表示され、変更の適用と次回起動時の動作を選択することができます。コンピューターのシャットダウン／再起動時も保護を解除しますので、同様に「終了ダイアログ」が表示されます（ログオフでは表示されません）。

保護を開始してから変更された内容をドライブに書き込みます。「リミット時の設定」（2-15 ページ）で「現在の状態をドライブに適用後、保護を継続する」が選択されている場合はチェックが入った状態になり、必ず変更が適用されます。



終了時の動作を選択します。「何もしない」は変更内容をドライブに適用する場合のみ選択できます。

「その他の設定」（2-17 ページ）の「コンピューター起動時／終了時の設定」の設定を「起動時の保護なし」に変更します。起動時からの保護が設定されていない場合は選択できません。再度起動時から保護を開始する場合は、設定をしておいてください。

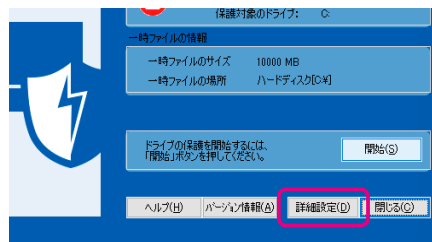
Point

「OS 起動時の設定」チェックボックスは、OS 起動時とリアルモードから保護を開始する場合は「OS 起動時に保護を開始しない」、ログオン時から保護を開始する場合は「ログオン時に保護を開始しない」と表記されます。

オプションの設定

「詳細設定」では、「一時ファイル」のサイズや除外設定、通知に関する設定など変更することができます。オプション設定の変更は、保護を解除した状態で行う必要があります。パスワードを設定している場合は、詳細設定画面を表示するためにパスワードの入力が必要です。

なお、「Simple Edition」は、機能が限定されるため、一部表示されない画面があります。



保護するドライブの設定



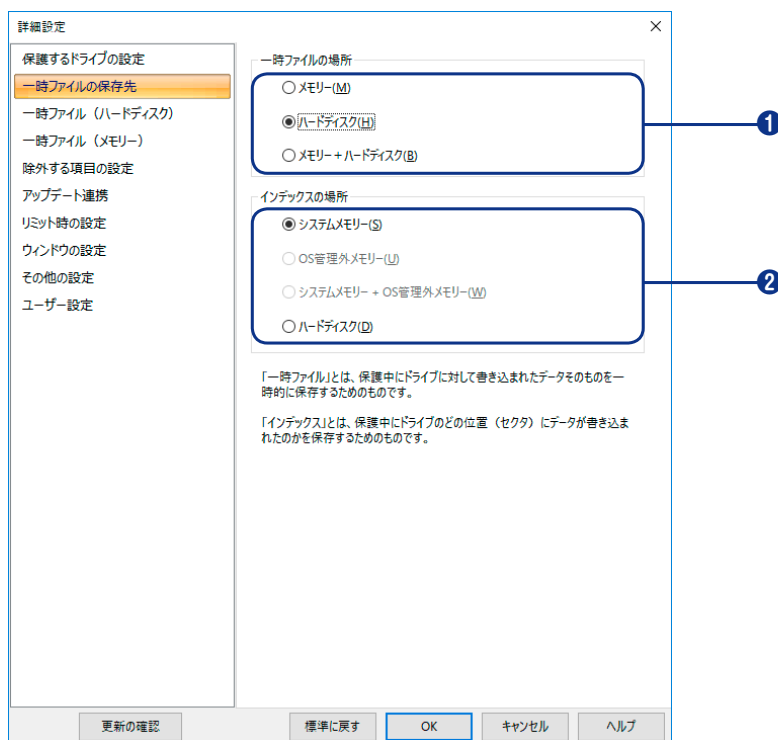
①保護するディスクの設定

保護をするディスクの番号を選択します。

②保護するドライブの設定

①で選択したディスクの中にあるドライブが表示されますので、保護するドライブにチェックを入れます。

一時ファイルの保存先



①一時ファイルの場所を選択

「一時ファイル」とは、保護中にドライブに対して書き込まれたデータそのものを一時的に保存するためのものです。ここでは、「一時ファイル」を作成する場所を選択します。「メモリー＋ハードディスク」が選択された場合は、一時ファイルはメモリーから先に消費されます。

②インデックスの場所を選択

「インデックス」とは、保護中にドライブのどの位置（セクター）にデータが書き込まれたのかを保存するためのものです。ここでは、「インデックス」を作成する場所を選択します。64bit 版の Windows では「OS 管理外メモリー」は選択できません（「インデックス」については、1-5 ページの注意事項を参照）。

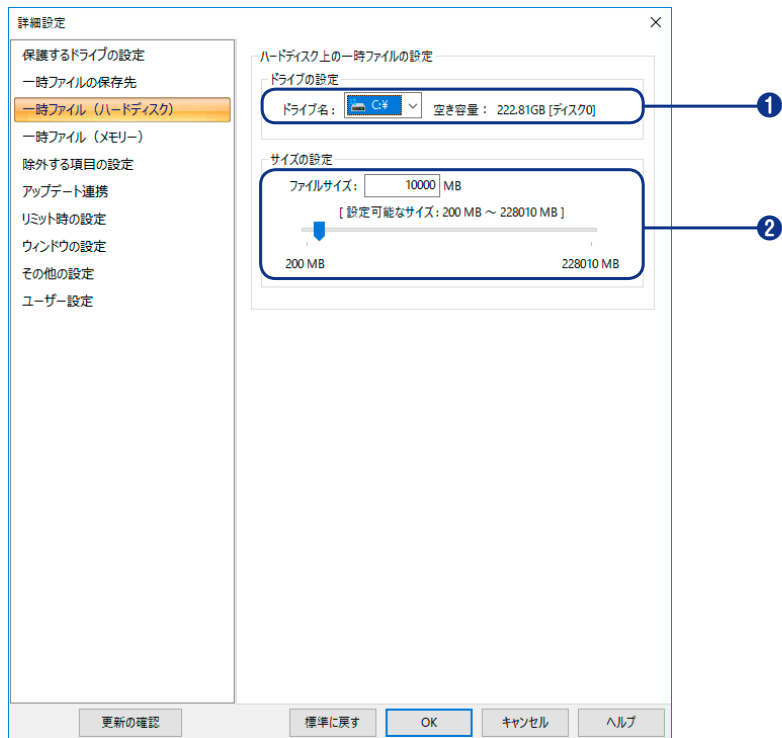
Point

「一時ファイル」はクラスタサイズに比例して消費量が大きくなります。つまり、同じファイルをクラスタサイズが異なるドライブに書き込んだ場合、4KB よりも 8KB のほうが一時ファイルの消費量は 2 倍となります。また、複数のドライブが選択されている場合、一番大きいクラスタサイズが使用されるため、保護するドライブに FAT32 と NTFS が混在するような環境では、NTFS だけの場合に比べて一時ファイルの消費量は大きくなります。

Point

「インデックス」には、保護するドライブサイズに対して約 1,000 分の 1 のメモリー容量が必要です。保護するドライブのサイズが大きくなるほど、必要な容量が大きくなります。「一時ファイル」と「インデックス」の両方をメモリーのみに設定すると、より多くのメモリー容量が必要となるため、環境によっては保護を行うことができなくなります。メモリーが不足する場合は、ハードディスクに設定してください。

一時ファイル（ハードディスク）



①ドライブの設定

「一時ファイル」の保存先ドライブを指定します。

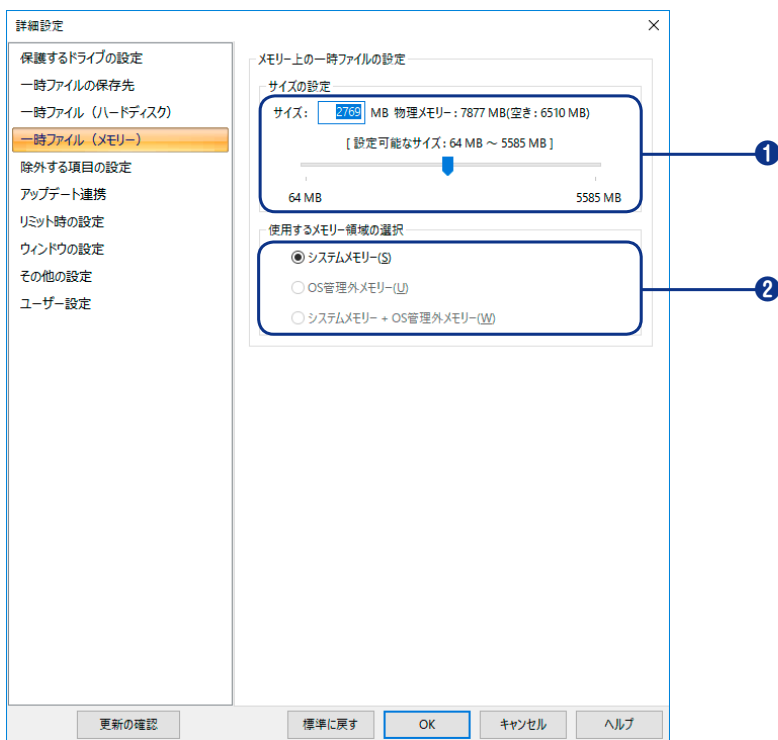
②サイズの設定

ハードディスク上に作成する「一時ファイル」のサイズを指定します。

Point

「一時ファイル」の使用済み容量が100%になると、保護が継続できずにコンピュータが強制的に再起動されてしまいます。頻繁に再起動が行われるような場合は、「一時ファイル」のファイルサイズを大きくしてください。また、強制再起動により必要なデータを紛失しないように、データは保護するドライブ以外に保存することを推奨します。一時ファイルの増加を軽減するための方法がありますので、3-2 ページを参考にしてください。

一時ファイル（メモリー）



①サイズの設定

メモリー上に作成する「一時ファイル」のサイズを指定します。

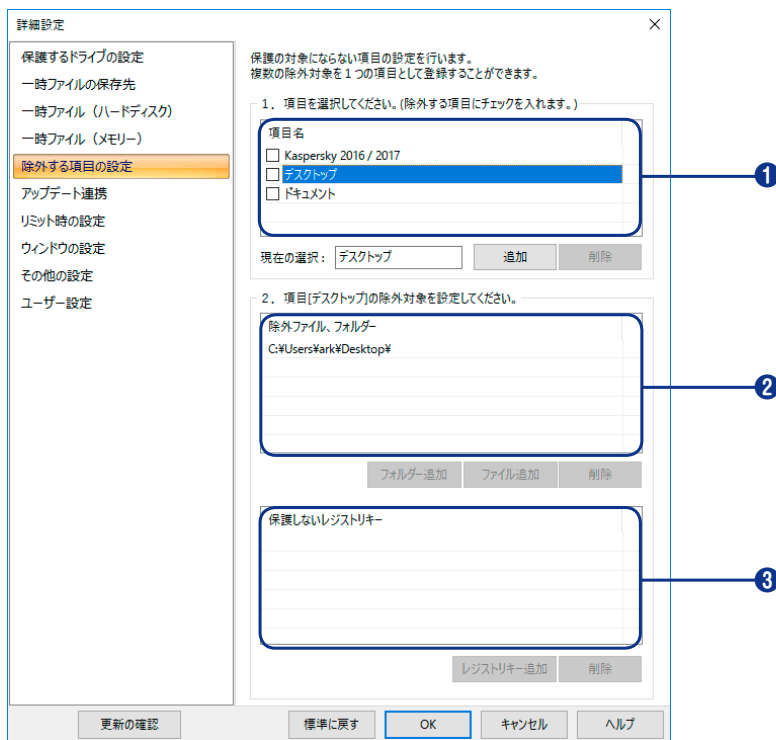
②使用するメモリー領域の選択

メモリー上に作成する「一時ファイル」の保存領域を選択します。64bit 版の Windows では「OS 管理外メモリー」は選択できません。



「一時ファイル」のサイズを大きくしても、実際に使用できるメモリーが不足している場合、保護を行うことはできません。また、システムメモリーを使用する場合、サイズを大きくすると Windows が使用できるメモリー容量が少なくなります。保護を行うことができないときや動作が遅くなる場合は、サイズを小さくするかハードディスクのみを使用するようにしてください。

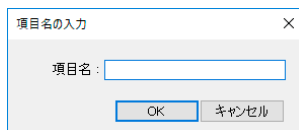
OS 管理外メモリーを使用する場合の注意事項は 1-5 ページを参照してください。



①項目の選択

保護中に除外する（保護しない）項目名にチェックを入れます。除外設定を有効にする場合、「その他」のタブの保護設定で、「保護ドライブへの全ての書き込みを一時ファイルに書き込む」にチェックが入ります。

項目名には、標準で、「Kaspersky 2016 / 2017」、「デスクトップ」、「ドキュメント」が登録されていますが、新たに項目名を追加するには、「追加」をクリックして項目名を入力します。



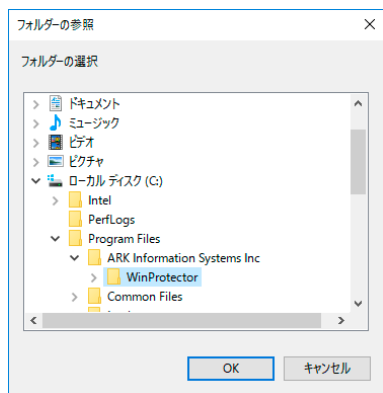
Point

「Kaspersky 2016 / 2017」の項目を選択すると、「Kaspersky 2016 / 2017」が使用しているフォルダーやレジストリ設定を除外することができます。これにより、アップデート連携（2-13 ページ）で「アンチウィルスソフトウェアの更新処理を行う」を選択しなくても定義データベースを更新することができますようになります。「Kaspersky 2016 / 2017」を使用している場合のみ有効な項目となります。

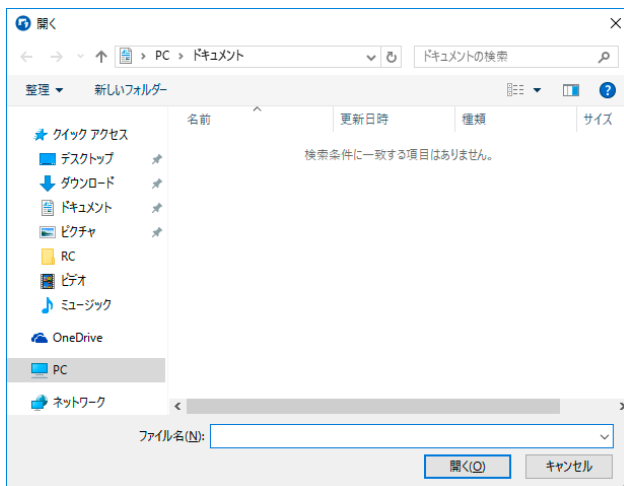
②除外するファイル、フォルダーの選択

①で追加した項目名を選択し、「フォルダー追加」、「ファイル追加」ボタンをクリックして除外する任意のフォルダー、ファイルを指定します。ここにリストされたフォルダー、ファイルは、保護を解除しても、保護中に書き込まれたデータはそのまま削除されずに残ることになります。

なお、「Kaspersky 2016 / 2017」は特別な項目名となり、除外するフォルダー、ファイルは自動的に設定され、リストに表示されません。



フォルダー追加画面

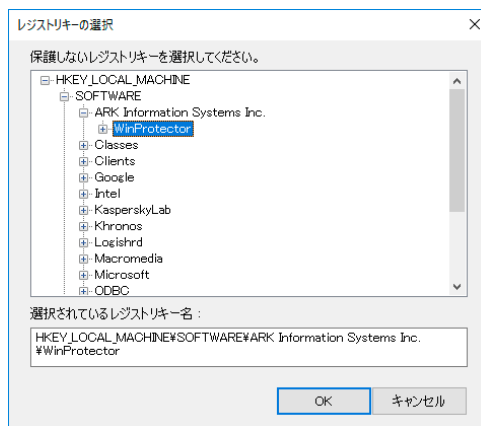


ファイル追加画面

③保護しないレジストリキーの設定

①で作成した項目名を選択し、保護しないレジストリキーを追加します。ここにリストされたレジストリキーは、保護を解除しても変更された各値は保護中の状態のまま残ります。

「レジストリキー追加」をクリックすると右の画面が表示されますので、保護しないレジストリキーを選択します。「選択されているレジストリキー名」欄に直接レジストリキーを入力することも可能です。この場合は、先頭に必ず「HKEY_LOCAL_MACHINE」を付けて入力してください。



レジストリキー選択画面



保護しないレジストリキーの設定を行うと、終了ダイアログ (2-6 ページ) において「一時ファイルを適用する」のオプションは選択できなくなります。

The screenshot shows the 'Update Linkage' settings window. On the left is a sidebar with various settings categories, with 'アップデート連携' (Update Linkage) selected. The main area contains several sections:

- Windows Updateの設定** (Windows Update settings): A checkbox for 'Windows Updateの更新処理を行う(W)' (Perform Windows Update update processing) is highlighted with a blue box and labeled with a circled '1'. A '詳細(D)' (Details) button is next to it.
- アンチウイルスソフトウェアの設定** (Antivirus software settings): A checkbox for 'アンチウイルスソフトウェアの更新処理を行う(U)' (Perform antivirus software update processing) is highlighted with a blue box and labeled with a circled '2'. Below it, a dropdown menu for 'ソフトウェア選択' (Software selection) is set to 'Kaspersky'.
- 実行するタイミング** (Execution timing): Two radio buttons are present: 'スケジュールで実行する' (Execute on schedule) which is selected and labeled with a circled '3', and 'シャットダウン時に実行する' (Execute at shutdown). Below the first radio button, there are fields for '間隔' (Interval) set to '毎日' (Daily), '開始時刻' (Start time) set to '00:00', and '制限時間' (Limit time) set to '10分' (10 minutes). A '今すぐ実行(N)' (Execute now) button is also present.
- アップデート連携終了後、シャットダウン(S)** (After update linkage ends, shutdown): A checkbox is highlighted with a blue box and labeled with a circled '4'. Below it is a '遅延時間' (Delay time) field set to '0' minutes.
- 更新処理を実行するアカウント** (Account to execute update processing): Fields for 'ユーザー名' (Username) and 'パスワード' (Password) are highlighted with a blue box and labeled with a circled '5'. An 'アカウント確認(U)' (Check account) button is to the right. A note at the bottom states: '※管理者(Administrator)権限を持ったユーザーを設定してください。' (Please set a user with administrator privileges).

 At the bottom of the window are buttons for '更新の確認' (Check update), '標準に戻す' (Reset to default), 'OK', 'キャンセル' (Cancel), and 'ヘルプ' (Help).

① Windows Update の設定

保護中に Windows Update を行うかどうかを設定します。「詳細」をクリックすると、アップデート連携に関する設定を行うことができます（次ページ参照）。

② アンチウイルスソフトウェアの設定

保護中にアンチウイルスソフトウェアの更新処理を行うかどうかを設定します。対象のアンチウイルスソフトがインストールされていない場合は選択できません。

③ アップデート連携を実行するタイミング

アップデート連携を実行するタイミングを「スケジュールで実行する」、「シャットダウン時に実行する」から選択します。保護中において「今すぐ実行」をクリックすると、すぐにアップデート連携処理が開始されます。「スケジュールで実行する」を選択した場合は、下の囲みの中で設定を行います。この動作の詳細は、2-24 ～ 2-25 ページを参照してください。

④アップデート連携後のシャットダウン設定

アップデート連携終了後にコンピューターをシャットダウンすることができます。アップデート連携中はコンピューターが何回か再起動しますが、アップデートが完了するまではシャットダウンは行われません。また、遅延時間を設定すると、アップデート連携時に自動ログオン後すぐに開始せず指定した時間を待ってからアップデート連携が開始されます。遅延時間は、0～10分の範囲で設定できます。

⑥更新処理を実行するアカウントの設定

アップデート連携を行う時は、コンピューターの再起動が行われます。その際、自動的にログオンするためのアカウント（ユーザー名とパスワード）を入力します。アカウントは、管理者権限を持ったアカウントである必要があります。ドメイン環境でのクライアント PC で使用する場合、クライアント PC のローカル管理者のアカウントを入力してください。

入力後は、「アカウント確認」をクリックして入力したユーザー名、パスワードが正しいかどうかを確認してください。

アップデート連携画面（再掲）

「Windows Update の設定」でアップデート連携に関する詳細な設定を行います。

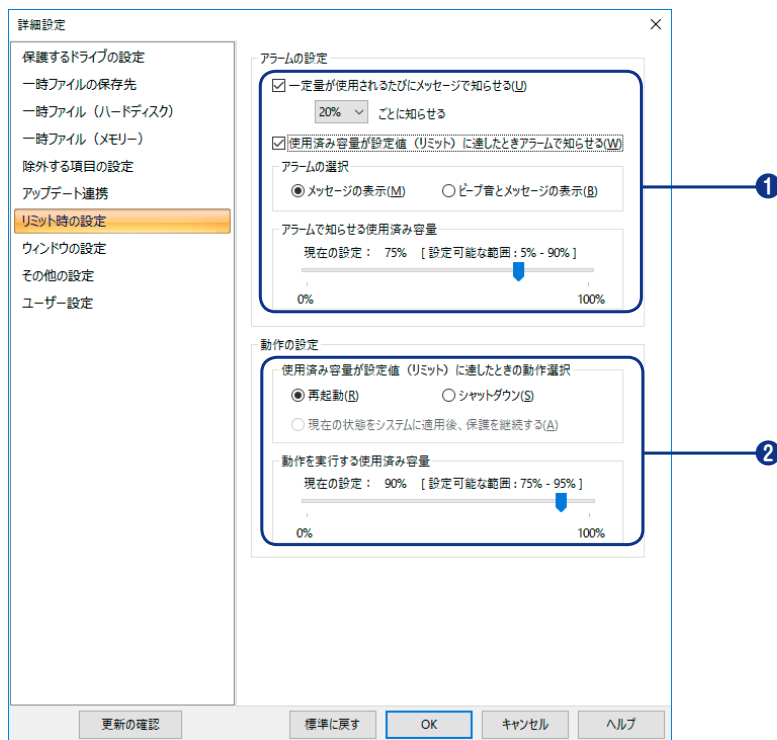
WSUS サーバーを使用する場合にチェックを入れ、WSUS サーバーと統計サーバー（通常は WSUS サーバーと同じ）欄にサーバー名を入力します。

プロキシサーバーを使用する場合にチェックを入れ、サーバー名とポート番号を入力します。認証付きプロキシの場合には、ユーザー名、パスワードも入力します。

アップデート連携により適用する更新プログラムの種類を選択します。

アップデート連携によって適用しない更新プログラムを「KB 番号」、「文字列」から指定します。「KB 番号」の場合、適用しない更新プログラムの KB 番号の数字部分のみを入力します。「文字列」の場合、適用しない更新プログラムの名前に含まれる文字列を入力します。例えば、「.NET Framework」と入力した場合、この文字列が含まれている更新プログラムはすべて適用されなくなります。

リミット時の設定



①アラームの設定

・一時ファイルが使用されるたびにメッセージで知らせる

「一時ファイル」が設定した容量だけ使用されるたびにメッセージを表示します。例えば、「20%」とした場合、「一時ファイル」の使用済み容量が20%、40%、60%、80%となった時にメッセージが表示されるようになります。

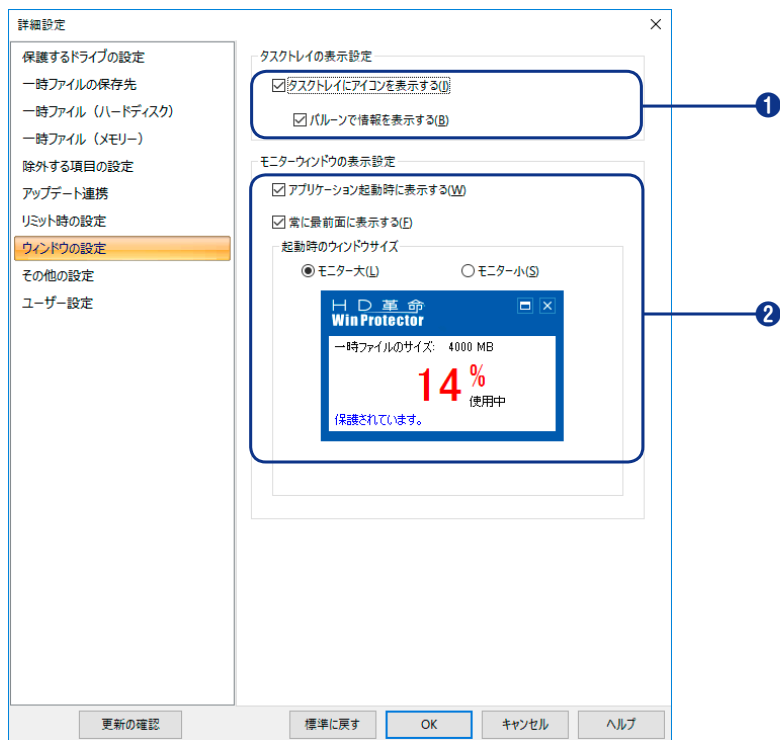
・使用済み容量が規定値（リミット）に達したときにアラームで知らせる

「一時ファイル」の使用済み容量が下にあるスライダーで設定した容量になった場合に、「アラームの選択」で選択したアラーム設定で警告をします。

②動作の設定

「アラームの設定」とは別に、「一時ファイル」が下にあるスライダーで設定した容量まで使用された時に、選択した動作を実行します。「現在の状態をシステムに適用後、保護を継続する」が選択されている場合、一時的に保護を解除して「一時ファイル」に保存された内容をドライブに書き込み、その後保護を再開します。なお、「現在の状態をシステムに適用後、保護を継続する」を使用するには、「一時ファイルの設定」タブで「一時ファイル」の場所に「メモリー」を選択し、かつ、保護対象のドライブが1つの場合のみ設定が有効となります。「Simple Edition」では、「現在の状態をシステムに適用後、保護を継続する」の機能はありません。

ウィンドウの設定

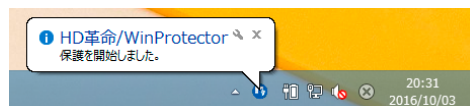


①タスクトレイの表示設定

HD 革命 /WinProtector が起動している時に、タスクトレイにアイコンを表示するかどうかを設定します。「バルーンで情報を表示する」にチェックが入っている場合は、保護の開始や解除、「リミット時の設定」タブで設定したアラーム情報などをバルーンメッセージで表示します。

②モニターウィンドウの表示設定

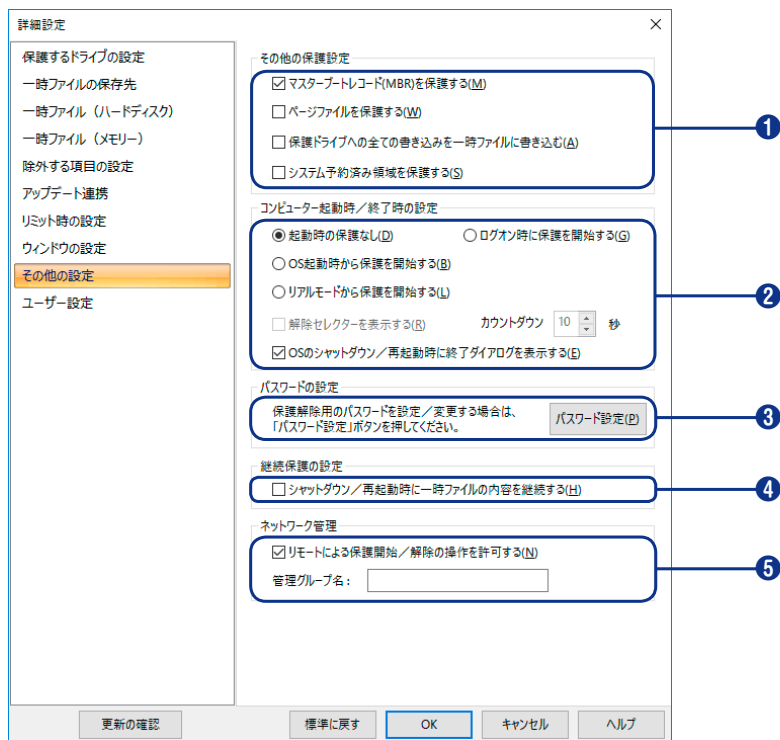
「一時ファイル」の使用済み容量と保護の状態を表示するモニターウィンドウの設定を行います。モニターウィンドウは、大小2つのサイズが用意されており、チェックを外すことでモニターウィンドウを表示しないようにすることもできます。



Windows 8.1/8/7 の場合



Windows 10 の場合



①その他の保護設定

・マスターブートレコード (MBR) を保護する

「保護するドライブの設定」タブで選択したディスクのマスターブートレコードを保護するかどうかを設定します。

・ページファイルを保護する

ページファイル (pagefile.sys) を保護するかどうかを設定します。このオプションを選択した場合、ページファイルの使用状況により、オプションを選択しない時よりも「一時ファイル」の使用量が増加することになりますので注意が必要です。

・保護ドライブへの全ての書き込みを一時ファイルに書き込む

このオプションが選択された場合、ドライブの空き領域も保護対象となります。保護中に書き込まれた内容は、空き領域も含め全て「一時ファイル」に書き込まれることになります。このオプションを選択した場合、セキュリティは向上しますが、「一時ファイルの使用容量」はオプションを選択しない場合よりも増加します。なお、「除外する項目の設定」タブで項目名を選択した場合は、このオプションを有効にする必要があります。

・システム予約済み領域を保護する

Windows 7以降の環境で使用されている「システムで予約済み」、「回復パーティション」、「EFI システムパーティション」を保護するかどうかを設定します。環境によってはこのような領域を保護できない場合があります。

②コンピューター起動時／終了時の設定

保護を行うタイミングを選択します。

・起動時の保護なし

コンピューターの起動、または Windows の起動時に保護は行われません。

・OS 起動時からの保護を開始する

Windows の起動時から保護を開始します。

・リアルモードから保護を開始する

コンピューターの起動時から保護を開始します。ただし、GPT ディスク環境では選択できません。

・ログオン時に保護を開始する

ユーザーがログオンした時から保護を開始します。「Simple Edition」では使用できません。

・解除セクターを表示する

Windows の起動時に「解除セクター」(2-6 ページ)を表示するかどうかを設定します。また、解除セクターにおけるカウントダウンの秒数も設定することができます。

・OS のシャットダウン／再起動時に終了ダイアログを表示する

Windows の再起動、またはシャットダウン時に「終了ダイアログ」を表示するかどうかを設定します。「リミット時に設定」タブにおいて、「現在の状態をシステムに適用後、保護を継続する」が選択されている場合は、ここでの設定に関わらず「終了ダイアログ」が表示されます。



解除セクターを表示しないようにすると、Windows の起動中に保護をキャンセルすることができません。起動中にアプリケーションの競合が生じた場合などは、キャンセルができないと Windows が起動できなくなります。あらかじめ正常に起動できることを確認してから、チェックをはずすようにしてください。

③パスワードの設定

保護を解除と「詳細設定」画面を開くためのパスワードを設定します。パスワードを忘れてしまうと保護を解除できなくなりますので注意してください。

パスワード設定画面

④継続保護の設定

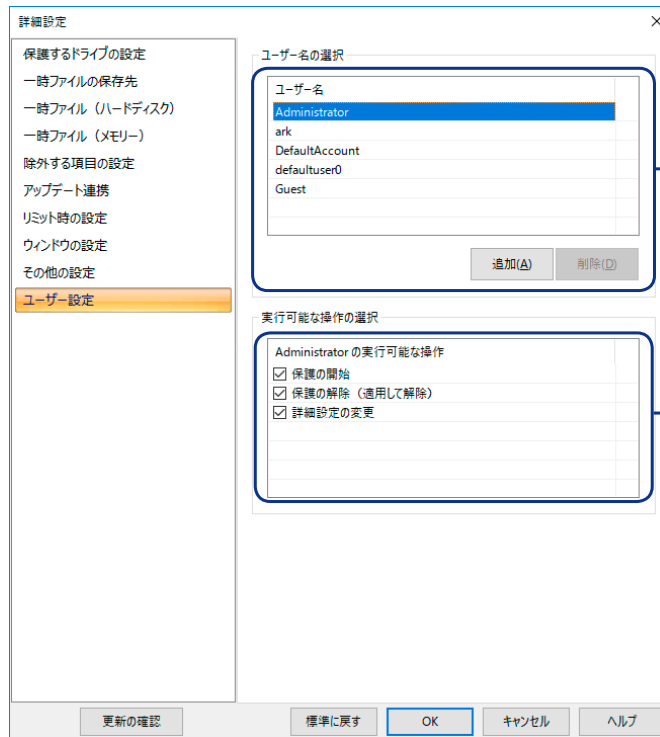
・シャットダウン／再起動時に一時ファイルの内容を継続する

コンピューターをシャットダウン／再起動しても、一時ファイルを破棄せず、保護を解除するまで保護中に書き込まれた内容が継続します。ただし、GPT ディスク環境では選択できません。また、「Simple Edition」では使用できません。

⑤ネットワーク管理

・リモートによる保護開始／解除の操作を許可する

別のコンピューターにインストールされている「ネットワークマネージャー」から、リモートによる保護の開始、解除の操作を許可するかどうかを選択します。「管理グループ名」には、「ネットワークマネージャー」(3-11 ページ)で区別するグループ名を入力します。16 文字まで入力が可能です。この機能は、「Standard」エディションでのみ表示されます。

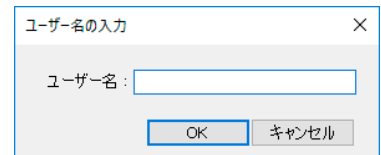


①ユーザー名の選択

操作を行うユーザーを選択します。初期状態で、現在その OS に存在しているユーザー名の一覧が登録されています。「追加」をクリックすると、新しくユーザー名を登録することができます。ドメインのユーザーを登録する場合は、「ドメイン名 \ ユーザー名」を入力してください。

Point

ユーザー名には、*によるワイルドカード指定ができます。「*」は 0 文字以上の任意の文字列を表します。例えば「a * r」と入力した場合、この画面のユーザー名では、「Administrator」が該当することになります。「ark」は後ろに「k」があるため「a * r」の条件には該当しませんので、指定する文字列に注意してください。



②実行可能な操作の選択

①の「ユーザー名」で選択されたユーザーに対して、実行を許可する操作にチェックを入れます。管理者としてログオンしているユーザーの動作を制限してしまうと、何も操作ができなくなってしまうので、ユーザー名を確認してからチェックをはずすようにしてください。

・保護の開始

保護の開始を許可します。保護の開始が不許可になっているときでも、「その他の設定」タブで「OS 起動時からの保護を開始する」または「リアルモードから保護を開始する」が有効になっている場合は、OS 起動時に保護が開始されます。

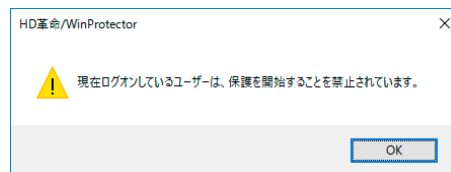
・保護の解除（適用して解除）

「一時ファイル」を適用して保護を解除することを許可します。

・詳細設定の変更

「詳細設定」画面を開いて設定を変更することを許可します。パスワードが設定されている場合は、パスワードの入力が必要です。

この画面で操作不可に設定されたユーザーがメイン画面などから操作を行おうとした場合、警告メッセージが表示されます。



Point

「その他の設定」の「ログオン時に保護を開始する」オプションの機能と「保護の開始」の許可、不許可の設定を組み合わせることで、特定のユーザーがログオンした場合だけ、保護を開始する（または、保護を開始しない）という動作を設定することができます。

例えば、Administrator がログオンした場合は保護を開始せず、それ以外のユーザーのログオン時に保護を開始するような場合、

①「ログオン時に保護を開始する」オプションを選択

②「ユーザー設定」で、Administrator の「保護の開始」を無効（チェックをはずす）

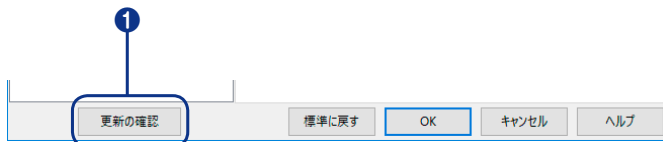
に設定することで実現できます。

ただし、Administrator 以外のユーザーでログオンして保護が開始された後、そのユーザーがログオフし、次に Administrator がログオンした場合は、保護がかかったままになります。

更新の確認

①更新の確認（ボタン）

「詳細設定」画面の左下に「更新の確認」ボタンがあります。このボタンをクリックすると、HD 革命 / WinProtector の更新を確認するツールが起動します。アップデータのダウンロードには、製品のユーザー登録が必要となります。



アーク情報システムの Web サイトにて既にユーザー登録を行われている場合は、登録したユーザー ID（メールアドレス）とパスワードを入力し、「ユーザー登録」をクリックします。

ユーザー登録を行われていない場合は、この画面より仮登録を行うことができます。仮登録を行うことで、アップデートをダウンロードとインストールを行うことができます。

ユーザー登録を行うユーザー ID（メールアドレス）、パスワードを入力し、「ユーザー登録」をクリックします。

⚠ 「更新確認ツール」にて製品の仮登録をする場合、登録される情報は、ユーザー ID（メールアドレス）、パスワード、シリアルナンバーのみとなります。サポートへのお問い合わせや優待販売で製品をご購入いただく場合は、正式なユーザー登録が必要となりますので、アーク情報システムの Web サイトでその他の項目の登録をお願いいたします。

ユーザー登録の確認、または仮登録が完了すると、次の画面が表示されますので、「更新」をクリックします。アップデータが存在する場合は、ダウンロードしてアップデートを実行します。

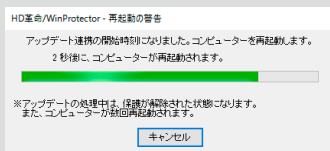
Point

「アップデータが存在しない場合は、「更新データがありませんでした。」とメッセージが表示され、「OK」をクリックすると更新の確認ツールが終了します。

Windows Update 実行時の動作について (「Simple Edition」は対応していません)

HD 革命 / WinProtector で保護を行っている間に、アップデート連携で「Windows Update」を行う設定にしている場合は、開始時刻になると自動的にコンピューターが再起動して Windows Update が行われます。アップデート連携中は保護が解除された状態となり、何回かコンピューターの再起動が行われます。

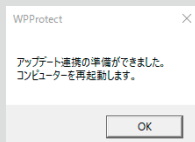
- 1 アップデート連携の開始時刻になると次のメッセージが表示され、コンピューターが再起動します。



- 2 再起動後に次のメッセージが表示されます。

Prepare for Update Cooperation...

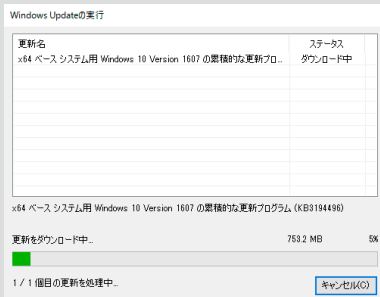
- 3 「詳細設定」の「アップデート連携」タブにおいて設定されたユーザーで自動ログオンし、アップデート連携の設定が行われます。このとき、右のメッセージが表示され、コンピューターが再起動します。



- 4 再起動後に次のメッセージが表示されます。

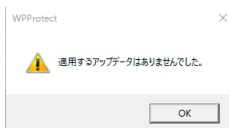
Prepare for Update Cooperation...

- 5 自動ログオン後に Windows Update が開始されます。この時、次の画面が表示され、Windows Update (ファイルのダウンロードとインストール) が行われます。Windows Update が行われている間は Windows の操作はできません。キャンセルをクリックすると Windows Update を途中で止めることもできます。



Point

適用する更新プログラムが存在しない場合は、次のメッセージが表示され、コンピューターの再起動が行われます。この時アップデート連携に必要な設定を元に戻しますので、次の起動時から保護が行われます。



- 6 一覧に表示された更新プログラムのインストールが終了するとコンピューターが再起動します。このとき、適用した更新プログラムがコンピューターの再起動を必要とする場合は、次回コンピューターの起動時に次のメッセージが表示されます。

Config windows update...
After the update is complete, the system will automatically restart ...

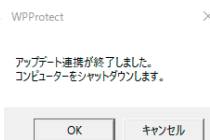
また、再起動後に更新プログラムがインストールされるような場合は、コンピューター起動時に次のメッセージが表示されます。この場合、複数回コンピューターが再起動されることがあります。

Prepare for Update Cooperation...

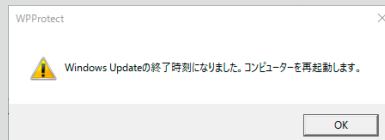
- 7 Windows Update の処理が全て完了すると、アップデート連携の設定を元に戻し、コンピューターの起動時に保護が開始されます。以降は、通常に操作が可能となります。

Point

「アップデート連携終了後、シャットダウン」のオプションが選択されている場合は、自動ログオン時に次のメッセージが表示され、コンピューターをシャットダウンします。「キャンセル」をクリックするとシャットダウンを中止することができます。



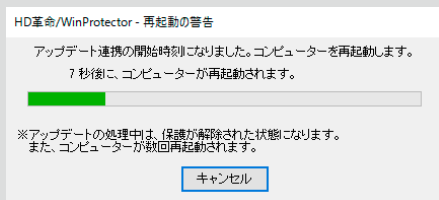
「Windows Update の設定」画面 (2-13 ページ) で設定した制限時間が経過すると、更新プログラムのインストールが全て終わっていない場合でも、途中でキャンセルされコンピューターを再起動します。この時は下にあるメッセージが表示されますが、メッセージは自動的に閉じます。Windows Update が途中でキャンセルされた場合でも、制限時間内にインストールされた更新プログラムは有効となりますので、同じ更新プログラムが重複してインストールされることはありません。次の開始時刻がきて Windows Update が開始されると、まだインストールされていない残りの更新プログラムがダウンロード、インストールされます。



アンチウイルスソフトウェアの更新動作について（「Simple Edition」は対応していません）

HD 革命 /WinProtector で保護を行っている間に、アップデート連携で「アンチウイルスソフトウェアの更新」を行う設定にしている場合は、開始時刻になると自動的にコンピューターを再起動してプログラムの更新処理を行います。アップデート連携中は保護が解除された状態となり、何回かコンピューターの再起動が行われます。

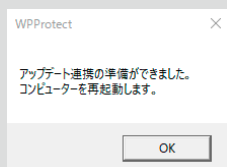
- 1 アンチウイルスソフトウェアの更新開始時刻になると次のメッセージが表示され、コンピューターが再起動します。



- 2 再起動後に次のメッセージが表示されます。

Prepare for Update Cooperation...

- 3 「詳細設定」の「アップデート連携」タブにおいて設定されたユーザーで自動ログオンし、アップデート連携の設定が行われます。このとき、次のメッセージが表示され、コンピューターが再起動します。

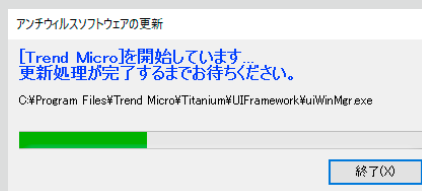


- 4 再起動後に次のメッセージが表示されます。

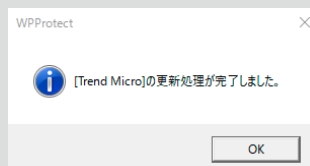
Prepare for Update Cooperation...

- 5 自動ログオン後にアンチウイルスソフトウェアの更新処理が開始されます。更新中は次の画面が表示されますが、処理に時間がかかりますのでそのまましばらくお待ちください。

なお、アンチウイルスソフトウェアの種類によっては、操作画面や設定画面、コマンドプロンプトが表示されることがありますが、操作は行わないようにしてください。「終了」をクリックすることで更新処理を止めることもできます。



- 6 更新処理が完了すると次のメッセージが表示され、コンピューターが再起動します。このとき、アップデート連携の設定は元に戻されますので、次のコンピューターの起動時から保護が開始します。以降は、通常に操作が可能となります。



Point

「詳細設定」の「アップデート連携」タブで、Windows Update とアンチウイルスソフトウェアの両方の更新処理を設定した場合は、最初にアンチウイルスソフトウェアの更新が行われ、アンチウイルスソフトウェアの更新完了後に Windows Update が行われます。

アップデート連携について

「アップデート連携」は、HD 革命 /WinProtector で保護を行っている間に、Windows Update、アンチウイルスソフトウェアの自動更新を行う機能です。設定した日時になると、保護を一時解除し、ダウンロード、適用した上で保護を再開します。「アップデート連携」には、いくつかの制限および注意事項があります。以下に「アップデート連携」を実行するタイミングの例をあげて、動作を説明します。

〈タイミングの設定例〉

間 隔：金曜日
開始時刻：23:00
制限時間：5 時間



Point

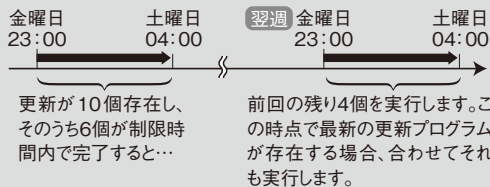
この設定では、毎週金曜日の 23 時になると「アップデート連携」機能により自動更新が開始します。制限時間（開始から終了までの時間）はユーザーがリストの中から指定（最大 5 時間）できますが、実行可能なアップデートがすべて適用された場合は、制限時間の終了を待たずにコンピューターが再起動し保護を継続します。

アップデートの実行内容

●アップデートが指定した時間内に終了しなかった場合

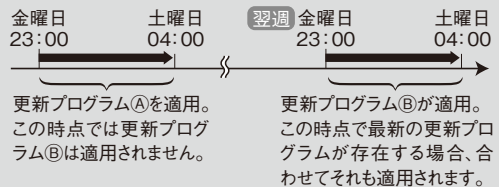
更新が制限時間（例では 5 時間）内に完了しなかった場合、残りの更新は、次の「アップデート連携」が実行されるタイミングで適用されます。

例えば更新プログラムが 10 個あり、制限時間内に 6 個まで完了した場合、残りの 4 個は次の「アップデート連携」のタイミングで適用されます。なお、終了時刻になっても更新が実行中だった場合、その更新は途中でキャンセルされ次のアップデート連携のタイミングで再度適用されます。



●更新プログラムの順序に依存関係がある場合

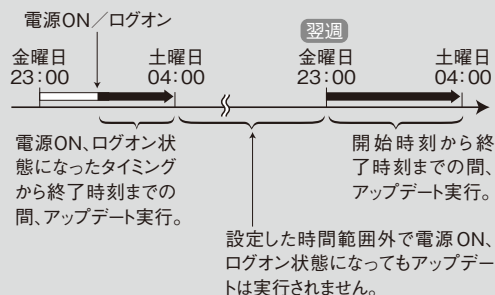
更新プログラム④に依存する更新プログラム⑥が存在する（更新プログラム④が先に適用されていないと、更新プログラム⑥が適用できない）場合、始めに更新プログラム④を適用した後、次のアップデート連携のタイミングに更新プログラム⑥が適用されます。



- 「実行するタイミング」(2-13 ページ) で「前回開始されなかった場合は、起動時／ログオン時に開始する」が OFF の場合

アップデートの実行には、「実行するタイミング」で設定した制限時間内で、コンピューターの電源が ON、かつ、ログオン状態である必要があります。

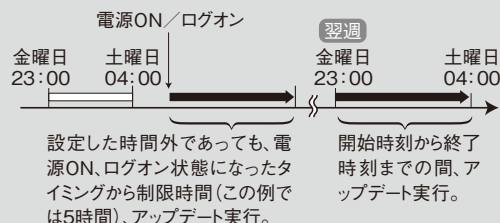
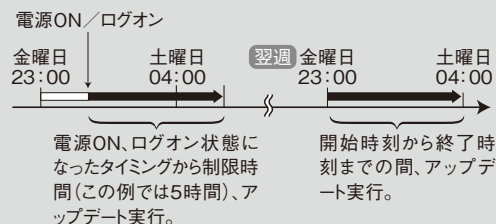
制限時間内にログオンされていない場合は、アップデートは実行されません。アップデートが実行されるのは、終了時刻までの間のみとなります。



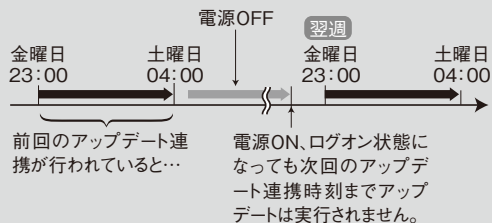
- 「実行するタイミング」(2-13 ページ) で「前回開始されなかった場合は、起動時／ログオン時に開始する」が ON の場合

アップデート連携の開始時刻から制限時間内に、コンピューターが起動していなかった等の理由でアップデート連携が行われていない時、「前回開始されなかった場合は、起動時／ログオン時に開始する」オプション(2-13 ページ) が ON の場合は、コンピューターの電源が ON になった時やログオン時にアップデート連携を開始します。

※ ログオン時に開始される場合は、通常のアップデート連携時と同様に「アップデート連携の開始時刻になりました。」のダイアログが表示され、コンピューターが再起動します)

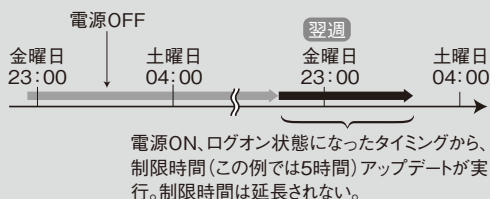


前回のアップデート連携が行われている場合は、次のアップデート連携開始時刻までアップデートは実行されません。



アップデート連携が設定されている時間範囲外にアップデート連携が開始し、アップデート連携の開始時刻を跨ぐ場合、アップデート開始から制限時間(この例では5時間)経過するまでアップデートが実行されます。

この場合、実行予定だったアップデート連携はキャンセルされ、次のアップデート連携開始時刻までアップデートは実行されません。

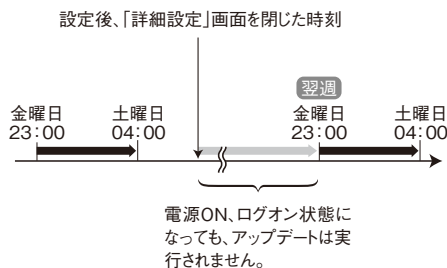


Point

オプション設定直後のアップデート連携について

「前回開始されなかった場合は、起動時／ログオン時に開始する」オプションを ON にして「OK」を押し、「詳細設定」画面を閉じたのが 4:00 以降とすると、次のアップデート連携実行タイミング(次の 23:00)までの間は、時間範囲外でもアップデート連携は開始されません。

次の実行タイミングの終了時刻(次の 4:00)以降は、時間外でもアップデート連携を開始する対象となります。



第 3 章

便利ツール

ここでは、HD 革命 /WinProtector Ver.6 をより便利にご利用いただくための各種ツールについて説明しています。

ComfortDisk

Windows には、パフォーマンスを向上させるために環境を最適化する機能があります。しかし、この機能が動作するとハードディスクへの書き込みが発生し、HD 革命 / WinProtector の一時ファイルを増加させる原因となります。

「ComfortDisk」は、Windows に付属している最適化機能のうち、ハードディスクや SSD への書き込みを行う機能の設定を変更するツールです。

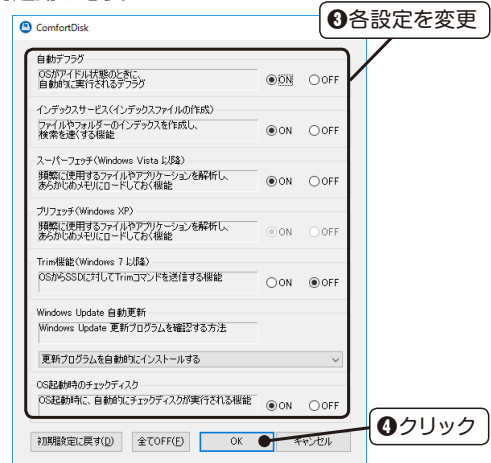
1 「ComfortDisk」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「ComfortDisk」を選択します。



2 設定の変更

各機能を有効にするか無効にするかを、ON / OFF により設定します。変更後はコンピューターの再起動が必要です。



- 各機能を OFF にするとハードディスク、SSD への書き込みは減少しますが、Windows のパフォーマンスは低下します。

自動デフラグ：Windows は、何も操作がされていない状態（アイドル状態）のときに自動的にデフラグを実行しています。この自動デフラグの設定を変更します。

インデックスサービス：Windows は、ファイルやフォルダーのインデックスを作成し、このインデックスを参照することで高速な検索を可能としています。このインデックスを作成する機能の設定を変更します。

スーパーフェッチ（Windows Vista 以降）：頻繁に使用するファイルやアプリケーションを解析し、あらかじめメモリにロードしてパフォーマンスを向上させる機能です。Windows 7 以降ではスーパーフェッチ（SuperFetch）といいます。

プリフェッチ（Windows XP）：スーパーフェッチとほぼ同じ機能です。Windows XP では、プリフェッチ（Prefetch）といいます。

Trim 機能（Windows 7 以降）：SSD の性能低下を抑制するために OS から SSD に対して行われる機能です。この Trim コマンドの設定を変更します。

Windows Update 自動更新：Windows の自動更新機能について下のメニューから選択することで設定を変更できます。

OS 起動時のチェックディスク：エラーが生じた場合など、Windows の起動時にチェックディスクが行われることがありますが、この機能を有効にするかどうかを設定します。

データトランスファー (「Simple Edition」は対応していません)

HD 革命 /WinProtector によってドライブが保護されている間は、保護したドライブに保存したデータが実際に保存されているように見えますが、実際にはハードディスクまたはメモリーに書き込まれているだけとなっています。そのため、書き込まれた内容を「ドライブへ適用」せずに保護を解除すると、それらのデータは失われて保護前の状態に戻ります。

通常は「ドキュメント」、「メールデータ」、「お気に入り」などの保存先はシステムドライブ (C ドライブ) に設定されているため、HD 革命 /WinProtector で C ドライブを保護すると、これらに保存したデータを「ドライブへ適用」しない限りデータが失われることになります。

「データトランスファー」は、通常は C ドライブに設定されている「ドキュメント」などの保存先フォルダーを別ドライブに移行するためのツールです。例えば、データトランスファーで保存先を D ドライブに移行すると、「ドキュメント」などのデータの保存先フォルダーが D ドライブに変更されます。以後「ドキュメント」などに保存したデータは自動的に D ドライブに移行したフォルダーに保存されるようになり、ドライブの保護の解除時に「ドライブへ適用」をすることなく、それらのデータが保存されます。

簡単モード (初心者向け)

すべての設定を別ドライブに移行します (「ドキュメント」「メールデータ」など個別に設定する場合は詳細モード (次ページ) を使用します)。



- データトランスファーは保護を解除した状態で実行してください。

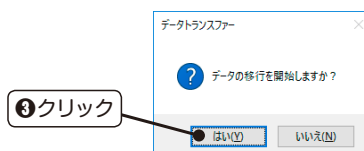
1 「データトランスファー」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「データトランスファー」を選択し、移行先ドライブを指定します。



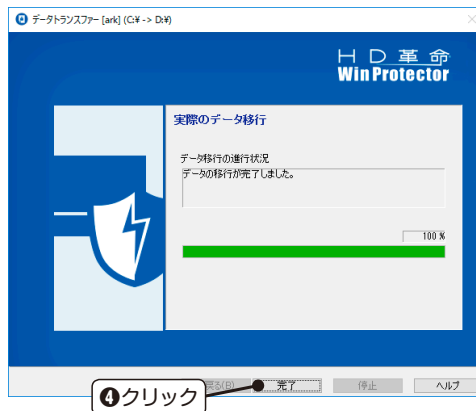
2 データ移行の確認

「はい」をクリックすると移行が始まります。

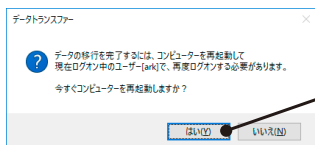


3 データ移行の完了

データの移行が完了します。



移行後はコンピューターの再起動が必要です。
再起動後、データを移行したユーザーでログイン
することで移行が完了します。



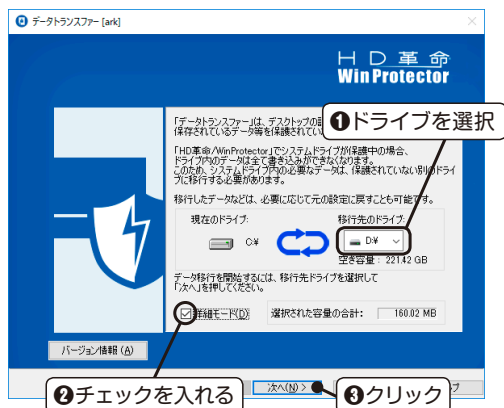
⑥クリックして再起動後、同じユーザーでログイン

詳細モード（上級者向け）

「ドキュメント」「メールデータ」など個別に設定して移行するモードです。

1 「データトランスファー」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「データトランスファー」を選択し、移行先ドライブを指定します。



メールデータを移行するときに選択します。

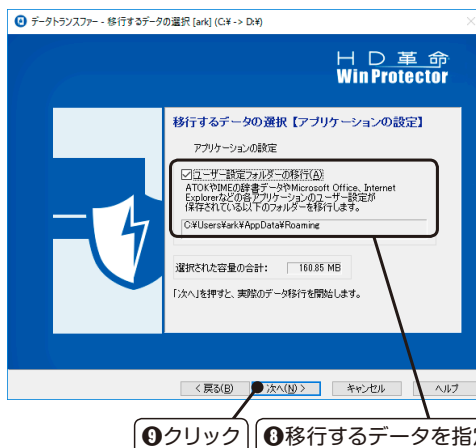


⑦クリック

ユーザーの設定を移行するときに選択します。

2 移行するデータの選択

一覧の中から移行するデータを選択します。

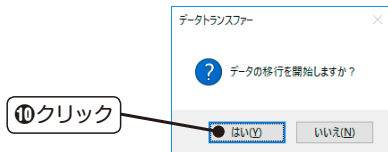


⑧クリック

⑨移行するデータを指定

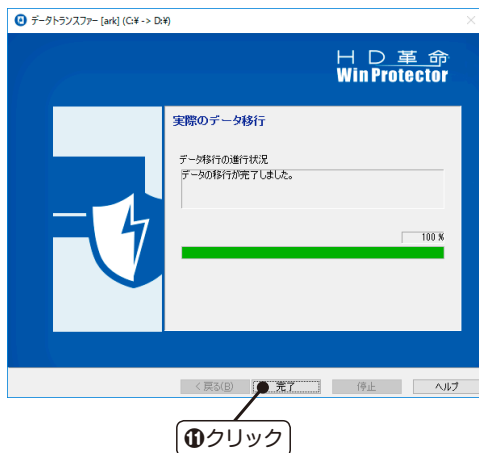
3 データ移行の確認

「はい」をクリックすると移行が始まります。

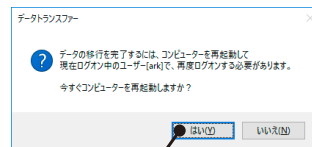


4 移行の完了

データの移行完了後、「完了」をクリックします。



再起動後、データを移行したユーザーでログインすることで移行が完了します。



12 クリックして再起動後、同じユーザーでログイン



- データ移行先ドライブがHD 革命 /WinProtector で保護するドライブに設定されていないかどうかを確認してください。
- 保護したドライブへの変更を適用せずに再起動/シャットダウンを行うと、変更されたデータが破棄されてしまいます (2-6 ページ参照)。

データトランスファーで移行した設定（データ）を元に戻す

「データトランスファー」で「ドキュメント」などを別ドライブに移行すると、保護解除の状態でも保存先フォルダーが別ドライブとなっています。通常の Windows 起動時と同様のシステムドライブ（C ドライブ）にするためには、データトランスファーによって設定（データ）を元に戻す必要があります。



- データトランスファーは保護を解除した状態で実行してください。

1 「データトランスファー」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「データトランスファー」を選択し、移行先になっていたドライブを選択します。

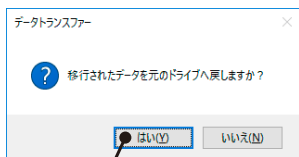
移行したデータを元に戻すときは、項目を選択することはできません（すべてを元に戻します）。



1 クリック

2 データ移行（復元）の確認

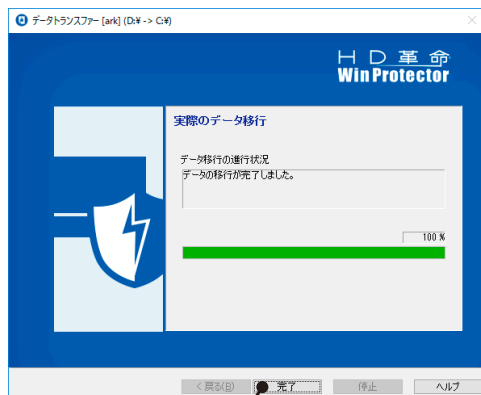
「はい」をクリックすると移行が始まります。



②クリック

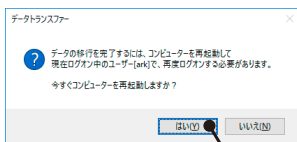
3 データ移行（復元）の完了

データの移行完了後、「完了」をクリックします。



③クリック

再起動後、データを移行（復元）したユーザーでログインすることで移行が完了します。



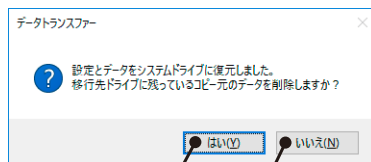
④クリックして再起動後、同じユーザーでログイン

4 ユーザーアカウント制御

コンピュータの再起動後、最終処理を行うために「データトランスファー」が起動します。このとき「ユーザーアカウント制御」の画面が表示されますので「はい」をクリックしてください。

5 データの削除

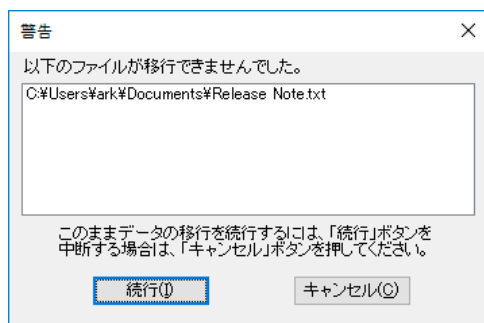
この時点では、別ドライブに移行してあったデータは残っています (Transferred Setting フォルダ)。
このデータを削除するか残しておくかどうかを選択します。



⑥フォルダ（データ）を削除するときをクリック

フォルダ（データ）は削除されず、移行してあった先に残ります。

ファイルが使用中の場合など移行できないファイルがある場合は、次の画面が表示されますので操作を選択します。



「キャンセル」をクリックした場合は移行が正常に行われていませんので再度行うようにしてください。

なお、移行できないファイルは、Windows 起動直後に「データトランスファー」を実行することで、移行ができるようになることがあります。

ドライブ情報の取得

コンピューターに接続されているハードディスクに関する情報を取得し、表示することができます。

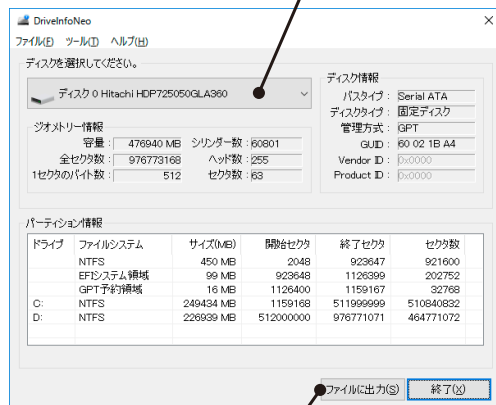
1 「ドライブ情報の取得」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「ドライブ情報の取得」を選択します。



2 ドライブ情報の取得

③情報を表示させたいディスクを選択



ドライブ情報をHTMLファイルに書き出すときにクリック



この画面の「ツール」メニューには、Windowsやパーティション情報を変更する機能がありますが、誤った操作を行うとWindowsを起動できなくなります。Windowsやパーティションの状態に問題がないときには使用しないでください。

コンピューター情報の取得

コンピューターに関する情報を取得し、表示することができます。

1 「コンピューター情報の取得」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「コンピューター情報の取得」を選択します。

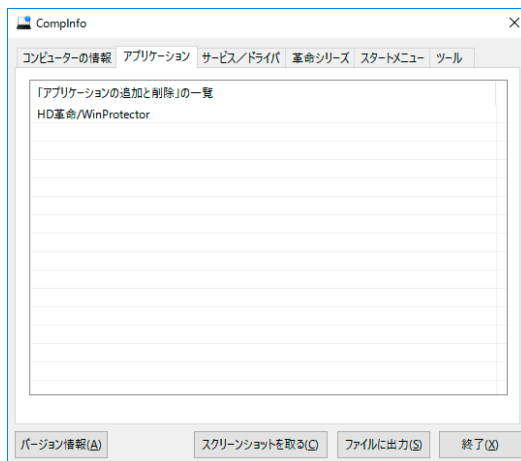


2 コンピューター情報の取得

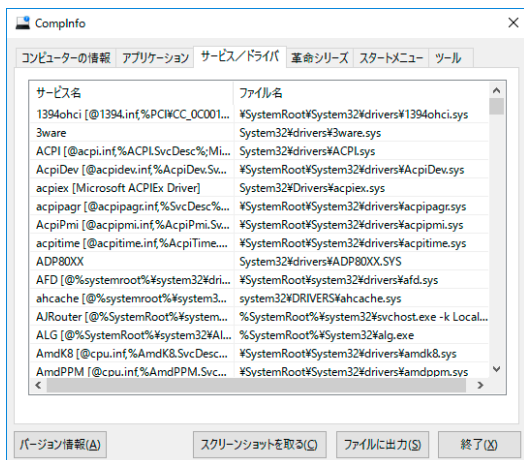
③各タブをクリックして、コンピューターの情報やインストールされているアプリケーションなどの情報を表示



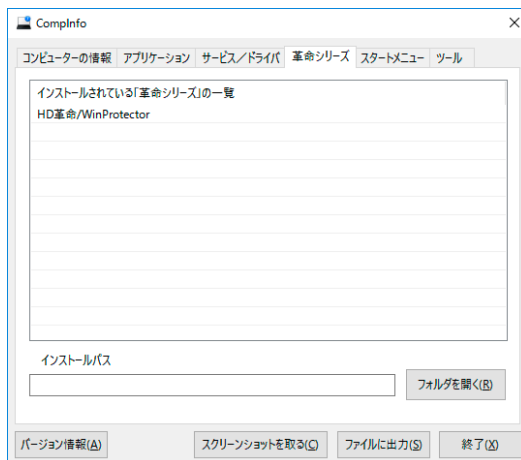
「コンピューターの情報」タブ



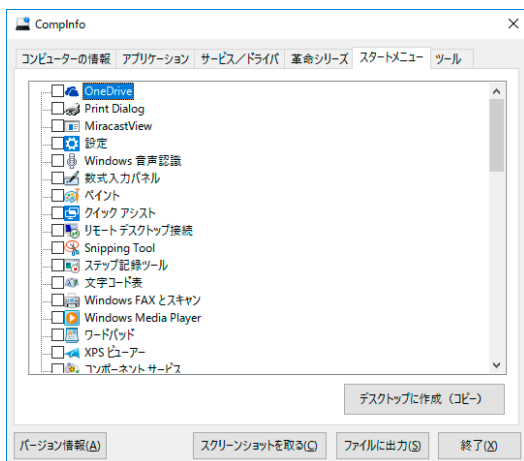
「アプリケーション」タブ



「サービス／ドライバ」タブ



「革命シリーズ」タブ



「スタートメニュー」タブ



「ツール」タブ

Point

「スタートメニュー」タブでチェックしたメニューを Windows のデスクトップに作成することができます。
「ツール」タブで「ディスクの管理」「タスクスケジューラ」ほかの Windows の機能を呼び出すことができます。

ネットワークマネージャー (「Standard」のみ)

ネットワークマネージャーは、ネットワークに接続された HD 革命 /WinProtector がインストールされているコンピューターを検索し、保護の開始・解除などの操作をリモートコントロールするツールです。

1 ネットワークマネージャーのインストール

製品 CD をドライブに挿入し、「NetworkManager」フォルダーの中にある「WPNetworkManagerSetUp.exe」を実行します。

2 ネットワークマネージャーのメイン画面

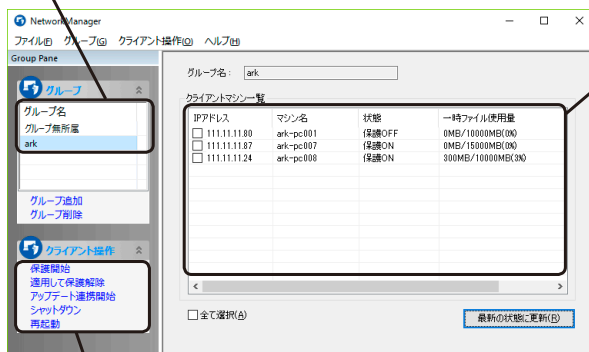
Windows のスタートメニューで「HD 革命 WinProtector 6」→「WinProtector ネットワークマネージャー」を選択するとメイン画面が表示されます。この画面でクライアントコンピューターの操作を行います。



- ネットワークマネージャーから「アップデート連携開始」を行うために、あらかじめクライアント側で「アップデート連携」の設定が行われている必要があります。
- 「アップデート連携」の設定が行われていないクライアントに対しては、「アップデート連携」をクリックしても何も起こりません。

ここで選択した管理グループ名が設定されているクライアントのみリストに表示されます。

初期設定では管理グループ名は「グループ無所属」が 1 つだけなので、他のグループ名のクライアントを表示する場合は「グループ追加」で管理グループ名を登録します。



クライアントとして利用可能なコンピューターの状態が表示されます。

一覧で選択したクライアントコンピューターの保護の開始、解除などを行います。

Point

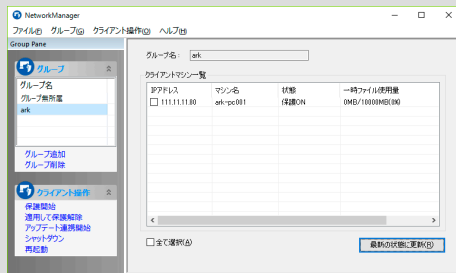
クライアントとなるコンピューターの管理グループ名は、HD 革命 /WinProtector の「その他の設定」画面（2-17 ページ）で設定します。

アップデート連携時の画面表示

ネットワークマネージャーから、選択したクライアントに対して「アップデート連携」を行う場合は、クライアントのコンピューターの状況により次のように画面が変遷します。

1 通常時

HD 革命 /WinProtector で保護が開始されていない場合は、「状態」に「保護 OFF」と表示されています。保護中は「保護 ON」と表示されます。



2 「アップデート連携開始」をクリックしたとき

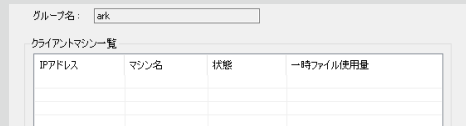
「状態」が「再起動中」になり、一時ファイル使用量の欄に「アップデート開始」と表示されます。このとき、クライアントコンピューターは自動的に再起動が行われます。



- クライアントコンピューターが操作中であつても、ネットワークマネージャーで「アップデート連携開始」がクリックされるとクライアントコンピューターは自動的に（強制的）に再起動が行われてしまいます。
- クライアントコンピューターの使用状況に注意してください。

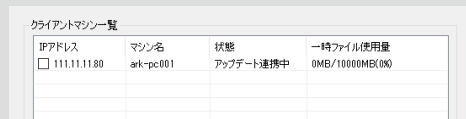
3 クライアントコンピューターが再起動中

アップデート連携のために、クライアントコンピューターが再起動中（Reboot for Windows Update / Anti-Virus Software update… の表示が出ているとき）は、ネットワークマネージャーには何も表示されません。



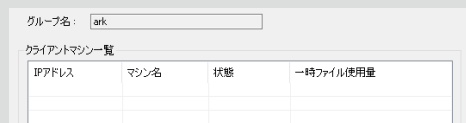
4 アップデート連携が実行中のとき

クライアントコンピューターが再起動後にオートログオンし、アップデート連携が実行されている間は、「状態」が「アップデート連携中」と表示されます。



5 アップデート連携が完了しクライアントコンピューターが再起動中

アップデート連携が完了して、クライアントコンピューターが再起動中（Reboot for Windows Update Finish / Anti-Virus Software update Finish… の表示が出ているとき）、ネットワークマネージャーには何も表示されません。



アップデート連携がすべて完了すると、クライアントコンピューターの表示は、「1 通常時」の表示に戻ります。

第 4 章

管理者向け機能

ここでは、コマンドラインからの操作や設定ファイルによる自動化など、管理者向けの機能について説明しています。

「詳細設定」のインポート・エクスポート

「詳細設定」の各画面で設定されている内容を、設定ファイル（.ini ファイル）として出力する（エクスポートする）ことができます。また、その設定ファイルを読み込むこと（インポートすること）で設定を反映できます。

複数台のコンピュータに HD 革命 /WinProtector をインストールする場合など、あらかじめマスターとなるコンピュータにおいて HD 革命 /WinProtector の詳細設定を行ってから設定ファイルを出力し、これを他のコンピュータでのインストール時に適用するということが可能となります。複数台のコンピュータを同じ設定で使用する場合に役立つ機能です。

設定ファイルのエクスポート

HD 革命 /WinProtector の保護が解除されている状態で、管理者権限で「コマンド プロンプト」を起動します。HD 革命 /WinProtector がインストールされているフォルダーに移動し、以下のコマンドを実行します。

WPProtect.exe /SAVECONFIG

インストールフォルダーに「ProtectConfig.ini」というファイルが作成され、現在の詳細設定の内容が保存されます。

Point

.ini ファイルを出力する際に、「/PATH=".ini ファイルのフルパス名"」のオプションを指定することにより、設定ファイルの保存場所、ファイル名を指定することもできます。

例) 設定内容を D:\setting\WinPSetting.ini へ出力する場合

WPProtect.exe /SAVECONFIG /PATH="D:\setting\WinPSetting.ini"

設定ファイルのインポート

以下の操作を行うことにより、エクスポートした設定ファイルを HD 革命 /WinProtector にインポートすることができます。

始めに、設定内容を出力した設定ファイルを「ProtectConfig.ini」というファイル名に変更します。このファイルを HD 革命 /WinProtector インストールフォルダーへ保存します。

次に、HD 革命 /WinProtector の保護が解除されている状態で、管理者権限で「コマンド プロンプト」を起動します。HD 革命 /WinProtector がインストールされているフォルダーに移動し、以下のコマンドを実行します。

WPProtect.exe /READCONFIG

以上で、設定ファイルに保存されている詳細設定の内容が現在の詳細設定へ反映されます。

Point

.ini ファイルを読み込む際に「/PATH=".ini ファイルのフルパス名"」のオプションを指定することにより、読み込む設定ファイルの保存場所、ファイル名を指定することもできます。

例 1) D:\setting\WinPSetting.ini から設定ファイルを読み込む場合

WPPProtect.exe /READCONFIG /PATH="D:\setting\WinPSetting.ini"

また、「/DELINI」のオプションを指定することで、読み込み処理完了後に、その設定ファイルを削除することができます。

例 2) D:\setting\WinPSetting.ini から設定ファイルを読み込み、処理完了後、設定ファイルを削除する場合

WPPProtect.exe /READCONFIG /PATH="D:\setting\WinPSetting.ini"



- ・「詳細設定」－「アップデート連携」画面の「詳細」ボタンから呼び出す「Windows Update アップデート連携詳細」の設定内容に関しては、この方法ではインポート／エクスポートされません
- ・インポートを行った場合は、コンピュータの再起動を促すメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら「はい」をクリックして、コンピュータを再起動させてください。また、このメッセージに回答しないで 10 秒間経過した場合は、自動的にコンピュータが再起動します。

サイレントインストール

HD 革命 /WinProtector は、サイレントインストールに対応していますので、画面を表示せずに自動的にインストールを行うことができます。

サイレントインストールの方法

管理者権限で「コマンド プロンプト」を起動し、インストール CD 中にある「setup.exe」をオプション付きで実行します。

Setup.exe -s -f1 WinProtectorSetUp.iss のフルパス -f2 サイレントインストールのログファイルのフルパス /z "/Silent /Serial=XXXX-XXX-XXXXXXXXXX /SetiniPath=" 初期設定.ini ファイル " /WinUpiniPath=" Windows Update アップデート連携詳細設定.ini ファイル " /UpdateiniPath="WinProtector アップデート用設定.ini ファイル " /MakeShortCut /RegUninst /Reboot"

※InstallShield のサイレントインストール用応答ファイルは、インストール CD 中にある「Appendix」フォルダーにあります。

Point

- ・「-f1」、 「-f2」と、「ファイルへのフルパス」との間にスペースは入りませんので、続けて入力してください。
- ・「-s -f1 WinProtectorSetUp.iss のフルパス」オプションを付けなかった場合は、画面表示ありで自動インストールが行われます。
- ・「-f2」オプションを省略した場合、setup.exe と同じ場所に setup.log というファイル名でログが保存されます。インストール CD の内容を丸ごとハードディスクや USB メモリーなどの書き込み可能な領域へコピーしてから setup.exe を実行ください。
- ・インストール CD 中にある setup.exe を直接実行する場合は、「-f2」オプションを省略するとログファイルが保存できないため、インストールを行うことができません。必ず「-f2」オプションでログファイルの保存場所を指定してください。

サイレントインストールのオプション

「/z」オプションの後ろには、サイレントインストール用のオプションを、スペースを入れずに " で囲んで指定します。

各オプションの間はスペースが入ります。ここで指定できるオプションは以下のとおりです。

/Silent

サイレントインストールを行います。

/Serial=XXXX-XXX-XXXXXXXXXX

シリアルナンバーを指定します。

/SetiniPath=" 初期設定.ini ファイル "

インストールと同時に設定したい詳細設定の初期値を記述した .ini ファイル（「詳細設定」のエクスポート機能で作成した .ini ファイル）を指定します（※1）。

/SetiniPath オプションを使用して詳細設定の初期設定ファイルを指定した場合、実際の設定ファイルのインポート処理は、インストールが完了して、コンピューターが再起動された（ユーザーがログインした）後に実行されます。

/WinUpiniPath=" Windows Update アップデート連携詳細設定.ini ファイル "

「Windows Update アップデート連携詳細」の設定内容が保存されている .ini ファイル（WinUpdateSet.ini）を指定します（※1）。

初期設定ファイルは、HD 革命 /WinProtector のインストールフォルダーにあります。設定方法は、「Windows Update アップデート連携用の設定」のコラムを参照してください。

/UpdateiniPath="WinProtector アップデート用設定.ini ファイル "

WinProtector アップデータのダウンロード／実行を行うための設定内容が保存されている .ini ファイル（UpdateInfo.ini）を指定します（※1）。初期設定ファイルは、HD 革命 /WinProtector

のインストールフォルダーにあります。設定方法は、「WinProtector アップデート用設定」のコラムを参照してください。

/MakeShortCut

デスクトップに「Ark ランチャー」のショートカットを作成します。オプションを付けない場合は、ショートカットを作成しません。

/MakeStartMenu

スタートメニューに「Ark ランチャー」のショートカットを作成します。オプションを付けない場合は、ショートカットを作成しません。

/RegUninst

コントロールパネルの「プログラムのアンインストール（プログラムの追加と削除）」の一覧に、WinProtector を登録します。このオプションを付けない場合は、「プログラムのアンインストール」の一覧に登録されません。

/Reboot

インストール完了後にコンピューターが自動的に再起動します。このオプションを付けない場合は、インストールが完了しても再起動しません。

※1 ファイル名は必ず " " で囲んでください。ファイル名はフルパスで指定する必要がありますが、ini ファイルが Setup.exe と同じフォルダー内に存在する場合は、パスを省略しファイル名のみでも指定できます。

サイレントインストールのオプション

以下にサイレントインストールを行う場合の例を示します。実際に Setup を実行する場合は、運用方法に応じて設定を変更してください。

例) 各オプションを設定して、サイレントインストールを実行する。オプション設定内容は「オプションの詳細」参照。

```
Setup.exe -s -f1E:\WinPSetUp\WinProtectorSetUp.iss -f2E:\InstallLog\WinPSetUp.log /z"/Silent /Serial=HDWP-A12-1234567890 /SetiniPath="ProtectConfig.ini" /MakeStartMenu"
```

オプションの詳細

- ・ サイレントインストール用応答ファイルは、E:\WinPSetUp\WinProtectorSetUp.iss を指定
- ・ サイレントインストールのログの保存場所は、E:\InstallLog\WinPSetUp.log を指定
- ・ シリアルナンバーに HDWP-A12-1234567890 を指定
- ・ 「詳細設定」の初期設定用 .ini ファイルに Setup.exe と同じフォルダーにある ProtectConfig.ini を指定
- ・ Windows Update アップデート連携詳細設定 .ini ファイルは指定しない
- ・ WinProtector アップデート用設定 .ini ファイルは指定しない
- ・ デスクトップに「Ark ランチャー」のショートカットを作成
- ・ 「プログラムのアンインストール（プログラムの追加と削除）」に登録しない
- ・ インストール完了後に再起動はしない

Windows Update アップデート連携用の設定

HD 革命 /WinProtector の「詳細設定」で「アップデート連携」を行う場合、Windows Updateにおいては「適用する更新プログラムの種類」の選択と「除外する更新プログラムの指定」を行うことができます。

ここで設定した内容は、「WinUpdateSet.ini」としてHD 革命 /WinProtector のインストールフォルダーに保存されます。サイレントインストールを行う際に、この .ini ファイルを指定することで、Windows Update の設定を反映することができます。

WinUpdateSet.ini の書式

HD 革命 /WinProtector のインストールフォルダーには、初期設定の「WinUpdateSet.ini」ファイルがあります。初期設定は以下のようになります。

初期設定の「WinUpdateSet.ini」

```
[WinUpdateSet]
UpdateType=1
UseProxy=0
ProxyServer=
ProxyPort=
ProxyUser=
ProxyPassWord=
[KB]
Number=1
Item1=KB3012973
[STR]
Number=3
Item1=Internet Explorer
Item2=Service Pack
Item3=Bing デスクトップ
```

値が0の場合「重要 + オプション」、1の場合「重要のみ」となります。必要に応じて変更してください。

Windows Update アップデート連携詳細

☐ WSUSサーバーを使用する

WSUSサーバー
統計サーバー

☐ プロキシサーバーを使用する(マイクロソフトのサーバーに接続する場合のみ)

サーバー名 ポート 8080

ユーザー名

パスワード

適用する更新プログラムの種類

☐ 重要 + オプション(A) ☒ 重要のみ(I) ☐ WSUSの設定に従う

除外する更新プログラムの指定

KB番号で指定：以下のKB番号の更新プログラムは適用しない

KB番号 追加(N)

削除(D)

文字列で指定：名前に以下の文字列を含んだ更新プログラムは適用しない

文字列 追加(N)

削除(D)

標準に戻す(S) OK キャンセル

WinUpdateSet.ini ファイルを直接編集する場合、[KB] の下に Windows Update の KB 番号、[STR] の下に任意の文字列を入力します。該当する Windows Update が存在した場合は、その更新プログラムは適用されません。

値が追加された「WinUpdateSet.ini」

```
[WinUpdateSet]
```

```
UpdateType=1
```

```
UseProxy=0
```

```
ProxyServer=
```

```
ProxyPort=
```

```
ProxyUser=
```

```
ProxyPassWord=
```

```
[KB]
```

```
Number=1
```

```
Item1=KB123456
```

```
[STR]
```

```
Number=4
```

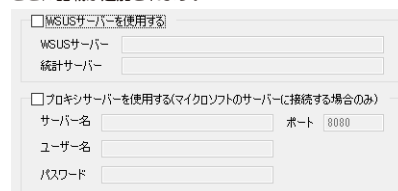
```
Item1=Internet Explorer
```

```
Item2=Service Pack
```

```
Item3=Bing デスクトップ
```

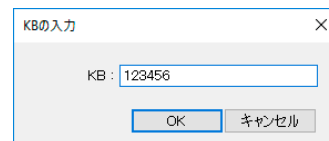
```
Item4=.NET Framework
```

「アップデート連携」の画面で各サーバーの設定を追加すると、ここに記載が追加されます。



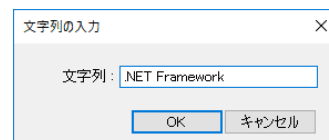
手動で KB 番号を追加した場合は、Item の数をここに記載してください。

「アップデート連携」の画面で KB 番号を追加すると、ここに記載が追加されます。



手動で文字列を追加した場合は、Item の数をここに記載してください。

「アップデート連携」の画面で文字列を追加すると、ここに記載が追加されます。



WinProtector アップデート用設定

HD 革命 /WinProtector には、アップデートファイルが存在するかどうかを確認し、ファイルが存在する場合はダウンロードして自動でアップデートを行う機能があります。初期設定ではアーク情報システムの URL アドレスが指定されていますが、設定ファイルを変更することで、ローカルパス、またはネットワークパスを指定することもできます。

アップデートファイルのダウンロード先を変更する場合は、HD 革命 /WinProtector のインストールフォルダーにある「UpdateInfo.ini」の変更と、アップデートファイルが存在する場所に決められた書式の設定ファイルを置いておく必要があります。

UpdateInfo.ini の書式

「UpdateInfo.ini」の初期設定は以下のようになっています。

アップデートファイルの保存場所を変更する場合は、「URL=」の部分をファイルが保存されているパスに変更します。

「UpdateInfoIni=」では、アップデートファイルが保存されている場所に置く .ini ファイル名を指定してください。

初期設定の「UpdateSet.ini」

```
;updater download setting file for WinProtector
```

```
[FileInfo]
```

```
URL=http://www1.ark-info-sys.co.jp/vcms_lf/
```

```
UpdateInfoIni=WinPUpdateInfoN.ini
```

```
FileNumber=0
```

```
FileName1=
```

```
Version=602
```

```
VersionStr=6.0.2.0
```

```
DisplayName=
```

```
command=
```

```
commandarg=
```

```
Reboot=0
```

← アップデートファイルへのパスを指定します。規定はアーク情報システムのアドレスとなっており、アップデートファイルのダウンロードを行うには、ユーザー登録が必要です。

← アップデートファイルと同じ場所に置く .ini ファイル名を記載します。任意のファイル名を指定できます。

← ここはアップデートが行われると自動的にバージョンが入りますので、変更する必要はありません。

Point

HD 革命 /WinProtector のインストールフォルダーにある「UpdateInfo.ini」においては、「URL=」と「UpdateInfoIni=」の部分のみ変更します。その他の行は入力する必要はありません。

アップデートファイルと同じ場所に置く .ini ファイルの書式

アップデートファイルと同じ場所に置く .ini ファイルの書式は、基本的に HD 革命 /WinProtector のインストールフォルダーにあるものと同じとなります。ここにアップデートファイルの詳細を追加します。以下は、HD 革命 /WinProtector のアップデートファイルが Ver.6.0.2 で、.ini ファイル名を「WinPUpdateInfoN.ini」とした場合の例となりますので、バージョンやファイル名に応じて記載を変更してください。

値が追加された「UpdateSet.ini」

```
;updater download setting file for WinProtector
```

```
[FileInfo]
```

```
URL=http://www1.ark-info-sys.co.jp/vcms_lf/ ← アップデートファイルへのパスを指定します。
```

```
UpdateInfoIni=WinPUpdateInfoN.ini ← アップデートファイルと同じ場所に置く .ini ファイル名を記載します。任意のファイル名を指定できます。
```

```
FileNumber=1 ← 値を変更します。
```

```
FileName1=WinProtector602UpWithNet.exe ← アップデートファイルのファイル名を記載します。
```

```
Version=602 ← バージョン値を指定します。
```

```
VersionStr=6.0.2.0 ← 変更の必要はありません。
```

```
DisplayName=HD 革命 /WinProtector Ver.6.0.2 アップデータ ←
```

```
command=WinProtector602UpWithNet.exe ← アップデートファイル名を記載します。
```

```
commandarg=/z"/Silent /Updateini Path="WinPUpdateInfoN.ini" /Reboot"
```

```
Reboot=0
```

↑
サイレントインストール用のオプションのうちから、
[/Silent]
[/UpdateiniPath]
[/Reboot]
の3つが指定できます。
[/UpdateiniPath] の .ini ファイル名は、必ず「UpdateInfoN.ini」
に記載されたファイル名と同じにしてください。

↑
任意の文字を指定できます。
この例では、製品名とバージョンを記載しています。

Point

アップデートファイルをローカルハードディスクや、ネットワーク上のハードディスクに保存し、そこから自動アップデートを行う場合は、「URL=」の部分にファイルへのパスを記載します。

例) URL=E:\download\

URL=\\192.168.0.1\pub\

URL=\\FileServer¥Update\

※「ネットワークドライブの割り当て」を行ったドライブを指定することはできません。ネットワークパスで指定してください。

※アップデートファイルをネットワークハードディスク（NAS など）に保存する場合は、ログオンパスワードが設定されるとファイルのダウンロードができませんので、パスワードは設定しないようにしてください。また、HD 革命 /WinProtector がインストールされているクライアントに対して、ファイルへのアクセスが可能な状態にしてください。

除外する項目（保護の対象としない項目）を登録

「詳細設定」の「除外する項目の設定」タブにおいて、「Kaspersky 2016 / 2017」、「デスクトップ」、「ドキュメント」が標準の項目として登録されています。設定ファイルを作成することで、ここに、ユーザーが設定した内容の項目を登録することができます。

項目として登録するには、以下の手順で操作を行います。

- 手順 1：除外設定を記述した「.ini」ファイルを作成する
手順 2：作成した「.ini」ファイルを特定フォルダーへ保存
手順 3：「詳細設定」の「除外する項目の設定」タブを開く

手順 1 除外設定を記述した「.ini」ファイルを作成する

メモ帳などで、拡張子が「.ini」のファイルを作成します。「.ini」ファイルを開き、指定の書式で除外する項目を記述します。「.ini」ファイルの名前は自由につけられますが、区別しやすい名前にすることをおすすめします。

標準で「Kaspersky 2016 / 2017」の「.ini」ファイルが保存されていますので、それを参考にして作成してください。

「.ini」ファイル記述例

- ① [WPAVS]
- ② Name= 除外リスト
- ③ Enable=1
- ④ EnableDef=0
- ⑤ EditMode=0
- ⑥ PathNum=3
- ⑦ RegNum=2
- ⑧ Path0=C:\Program Files\ARK Information Systems Inc\WinProtector\
Path1=C:\Users\ark\Pictures\
Path2=C:\資料\Readme.txt
- ⑨ Reg0=HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ARK Information Systems Inc.
Reg1=HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\xxxx

① [WPAVS]

「.ini」ファイル内でのカテゴリ名で、「.ini」ファイルの先頭に記述します。

② Name=

「項目名」に表示する名前を記述します。

③ Enable=

項目名の有効、無効を設定します。

0：この項目名が無効（「除外する項目の設定」タブで項目名のチェックが OFF）となります。

1：この項目名が有効（「除外する項目の設定」タブで項目名のチェックが ON）となります。

④ EnableDef=

「標準に戻す」ボタンが押されたときの動作を設定します。

- 0 : 「標準に戻す」ボタンが押されたときに、項目を無効 (チェックを OFF) にします。
- 1 : 「標準に戻す」ボタンが押されたときに、項目を無効 (チェックを ON) にします。

⑤ EditMode=

登録される項目名の編集を許可するかどうかを設定します。

- 0 : 除外するファイル、フォルダー、保護しないレジストリの編集が不可 (「追加」、「削除」ボタンがグレースアウト) となります。
- 1 : 除外するファイル、フォルダー、保護しないレジストリの編集が可能 (「追加」、「削除」ボタンが有効) となります。
- 2 : 除外するファイル、フォルダー、保護しないレジストリの編集が不可 (「追加」、「削除」ボタンがグレースアウト) となり、かつ、設定されているファイル、フォルダー、レジストリの内容を表示しません。この場合、「この項目は自動的に設定されます。」と表示されます。

⑥ PathNum=

除外ファイル、フォルダーの総数を記載します。この「.ini」ファイルの記述例では、2つのフォルダーと1つのファイルが除外されますので、「3」と記載しています。

⑦ RegNum=

保護しないレジストリの総数を記載します。この「.ini」ファイルの記述例では、2つのレジストリが除外されますので、「2」と記載しています。

⑧ PathX=

「X」には「0」から始まる数字が入ります。「Path0=」のように記載し、その後ろに除外するファイル、フォルダーのパスを記述します。フォルダーを除外する場合は、必ず最後に「\」を付けてください。

⑨ RegX=

「X」には「0」から始まる数字が入ります。「Reg0=」のように記載し、その後ろに保護しないレジストリのパスを記述します。「**HKEY_LOCAL_MACHINE**」を必ず先頭に付けてください。

手順 2 作成した「.ini」ファイルを特定フォルダーへ保存

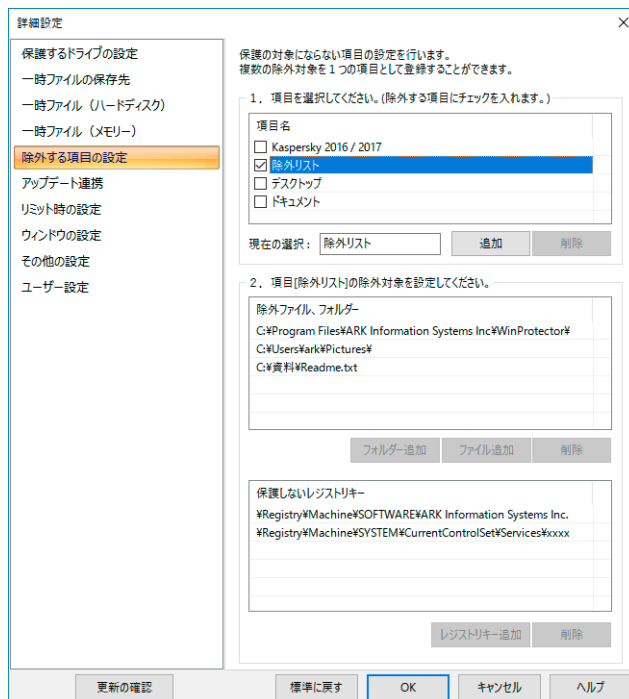
編集した「.ini」ファイルを、HD 革命 /WinProtector のインストールフォルダーにある「DefExd」というフォルダーに保存します。標準では、以下のフォルダーとなります。

C:\Program Files\ARK Information Systems Inc\WinProtector\ DefExd\

手順 3 「詳細設定」の「除外する項目の設定」タブを開く

「.ini」ファイルの設定を反映させるために、「詳細設定」の「除外する項目の設定」タブを一度開く必要があります。「.ini」ファイルを保存しただけでは除外設定は有効になりませんので、必ずこの操作を行うようにしてください。

また、「除外する項目の設定」タブに登録された「項目名」の除外設定において、表示内容に間違いがないかを確認してください。



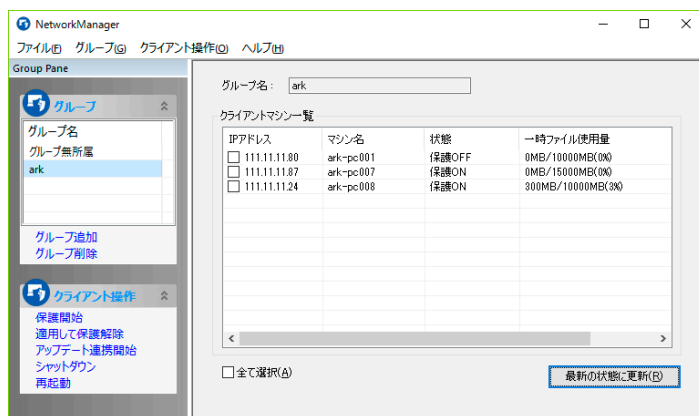
Point

「Network Controller」から「.ini」ファイルを送信した場合などで「詳細設定」の「除外する項目の設定」タブが開けないような状況のときには、コマンドを実行することで「.ini」ファイルの内容を反映させることができます。
HD 革命 /WinProtector がインストールされているフォルダー（標準では C:\Program Files\ARK Information Systems Inc\WinProtector）に移動し、以下のコマンドを実行します。

```
WPProtect.exe /RELOADDEFEXD
```


ネットワークマネージャーのコマンドライン操作

ネットワークマネージャーでは、下の操作画面でクライアントに対する保護の開始／解除、シャットダウン／再起動の操作を行うことができますが、コマンドラインでも同じようにクライアントを指定して操作を行うことができます。



コマンドライン操作方法

管理者権限で「コマンド プロンプト」を起動します。ネットワークマネージャーがインストールされているフォルダーに移動し、次のコマンドを実行します。

WinPServerConsole.exe /IP:IP アドレス オプションスイッチ

・IP アドレス は、IPv4 形式 (XXX.XXX.XXX.XXX) で指定します。

・オプションスイッチは以下となります。

/ON : 保護の開始
/OFF : 適用して保護解除
/REBOOT : 再起動
/SHUTDOWN : シャットダウン
/UPDATE : アップデート連携開始



- ・一度に指定できる IP アドレス (1 回の操作で対象にできる PC) は、1 つのみとなります。複数の PC を同時に操作することはできません。
- ・オプションの複数指定はできません。例えば、「/OFF /SHUTDOWN」としても、動作としては、最初に指定されたオプションのみ有効となります。
- ・上記の「ネットワークマネージャーの操作画面」が起動している場合は、コマンドラインでの操作はできません。

コマンドライン操作の実行例

以下にコマンドラインから操作を行う場合の例を示します。

例 1) IP アドレス 111.222.333.444 のマシンに対して、「保護の開始」を実行する。

WinPServerConsole.exe /IP:111.222.333.444 /ON

例 2) IP アドレス 111.222.333.444 のマシンに対して、「シャットダウン」を実行する。

WinPServerConsole.exe /IP:111.222.333.444 /SHUTDOWN

付 録

ユーザーサポートのご利用にあたって

お問合せになる前に

①操作方法・トラブル内容について調べる

インターネット接続が可能な場合は、FAQ（よくあるお問合せ）をご覧ください。操作上の注意点、トラブル内容と対処方法などが記載されています。

<http://www1.ark-info-sys.co.jp/support/index.html>

②アップデートをダウンロードする

最新アップデートを適用することにより、改善場合があります。下記からダウンロードしてください。

<http://www1.ark-info-sys.co.jp/download/index.html>

③弊社サポートへ問い合わせる

上記によっても解決しないとき、またはインターネット接続ができない場合に弊社ユーザーサポートをご利用ください。

合があります。エラーが発生するまでの手順を、箇条書きでお知らせください。

(例)

1. メイン画面で「開始」ボタンをクリック
2. アプリケーションエラーが発生
エラーメッセージ「*****」（正確に転記してください）

※ お客様の個人情報は、弊社情報セキュリティ方針に従い適切な保護を行います。詳しくは弊社 Web サイトをご覧ください。

※ FAX の場合、「ユーザーサポート申込書」をコピーしてご記入の上お送りください。

※ メール・FAX の場合、お問い合わせの内容により 3～5 営業日ほどお時間をいただく場合があります。あらかじめご了承ください。

※ 曜日や時間帯によってはお問い合わせが集中し、お電話がつながりにくくなる場合がございます。その際は、恐れ入りますが時間をずらしてお電話をいただきますようお願いいたします。

お問合せに当たって

■ メールフォーム： https://www2.ark-info-sys.co.jp/ARK_N/MailSupport/MainGate.asp

■ FAX：03-3234-9252

■ TEL：03-3234-9251（祝祭日・弊社休業日を除く月～金の10～12時、13～17時）

* * *

お問い合わせいただく際、メール、FAX、電話のいずれの場合においても以下の項目が必要です。

- ①メールアドレス
- ②製品名、バージョン、シリアルナンバー
- ③ご使用の OS（Windows 7 など）
- ④ エラーメッセージ全文

障害の状況により、さらに詳しい情報が必要な場



● 弊社で動作保証している環境以外（自作のコンピュータ、ショップメイドのコンピュータ、CPU オーバークロック、そのほかハードウェアの改造など）で不具合が発生するケースにおいては、パーツの相性や、デバイスドライバーがその一因となっていることがあります。

● その場合、すべてのパーツの組み合わせの相性テストは不可能であり、弊社ユーザーサポート環境にて再現性のない場合や、相性により発生していると思われる問題につきましては対応が不可能な場合もあります。ご了承ください。

● 他社製品、シェアウェアなどのパーティション操作ソフトウェア（マルチブートユーティリティなど）との共存は原則としてサポート外とさせていただきます。

必ずユーザー登録終了後にユーザーサポートをお申し込みください。

FAX 03-3234-9252

株式会社アーク情報システム 企画販売部 ユーザーサポート係 行

「HD 革命 /WinProtector Ver.6」 ユーザーサポート申込書

お使いの環境を、わかる範囲でご記入ください（この用紙でユーザー登録はできません）。

●弊社からお客様への連絡方法 （FAX、E-Mail のどちらかをご指定ください。ただし、ご希望に添えない場合もありますのでご了承ください。）

1. FAX 2. E-Mail

●お客様のお名前・ご連絡先・対象の製品（※ は必ずお書きください）

※お名前：

TEL： FAX：

E-Mail アドレス：

※シリアルナンバー：

製品の種類： 1. Standard 2. Simple Edition

3. with Network Controller

アップデートの有無：有・無（Ver.）

●お使いのコンピューターについて

メーカー名：

機種名とシリアルナンバー：

メモリー（RAM）容量：

Windows の種類： Windows 10 Home / Windows 10 Pro（バージョン OS ビルド ）

Windows 8.1 / Windows 8.1 Pro（8.1 Update の有無 有・無）

Windows 8 / Windows 8 Pro

Windows 7 Starter / HomePremium / Professional / Ultimate（SP ）

32 ビット版 / 64 ビット版

接続されている周辺機器：

.....

.....

.....

ボード、カードをご利用の場合

・I/F：SCSI、eSATA、RAID、USB2.0、USB3.0、IEEE1394、その他（ ）

・メーカー、型番、チップセット：

.....

.....

.....

.....

●障害が生じた操作 (□にチェックを入れてください)

- ☐ HD 革命 /WinProtector のインストール
- ☐ 保護の開始
- ☐ 保護の解除
- ☐ オプションの設定時
- ☐ Windows の起動時 (解除セクターの表示)
- ☐ Windows の終了時 (終了ダイアログの表示)
- ☐ データトランスファー
- ☐ その他

●設定内容

保存先

- ☐ メモリー
- ☐ ハードディスク
- ☐ メモリー+ハードディスク

一時ファイルの設定 (ハードディスク)

設定した一時ファイルのサイズMB

一時ファイルの設定 (メモリー)

設定した一時ファイルのサイズMB

- ☐ システムメモリーのみ
- ☐ OS 管理外メモリーのみ
- ☐ システムメモリー + OS 管理外メモリー

インデックスの設定

- ☐ システムメモリーのみ
- ☐ OS 管理外メモリーのみ
- ☐ システムメモリー + OS 管理外メモリー
- ☐ ハードディスク

エラーメッセージ:

.....

現象:

.....

.....

エラーメッセージ: _____

現象：

エラーメッセージ: _____

現象：

エラーメッセージ: _____

[illegible]

エラーメッセージ: _____

現象：

エラーメッセージ: _____

現象：

エラーメッセージ: _____

現象：

- ・本ユーザーズ・マニュアルは PDF ファイルとして提供しており、Adobe Reader（Adobe 社の閲覧ソフトウェア）を使用し、オンラインマニュアルとしてご利用いただくことができます。
- ・ Microsoft[®], Windows[®]10, Windows[®]8, Windows[®]8.1, Windows[®]7, Windows[®]Vista, Windows[®]XP, Windows PE は米国 Microsoft Corporation の、米国および他の国における登録商標または商標です。
- ・ その他の会社名、商品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。

HD 革命 /WinProtector Ver.6 ユーザーズ・マニュアル

2016 年 10 月 1 日 第 1 版発行

発 行 株式会社アーク情報システム

〒 102-0076 東京都千代田区五番町 4- 2 東プレビル

© 2016 Ark Information Systems

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

著作権法の範囲を超え、本書を無断で複写、複製、転載することを禁じます。